

第2章 本村の福祉を取り巻く環境

1 統計データ等からみた地域の動向

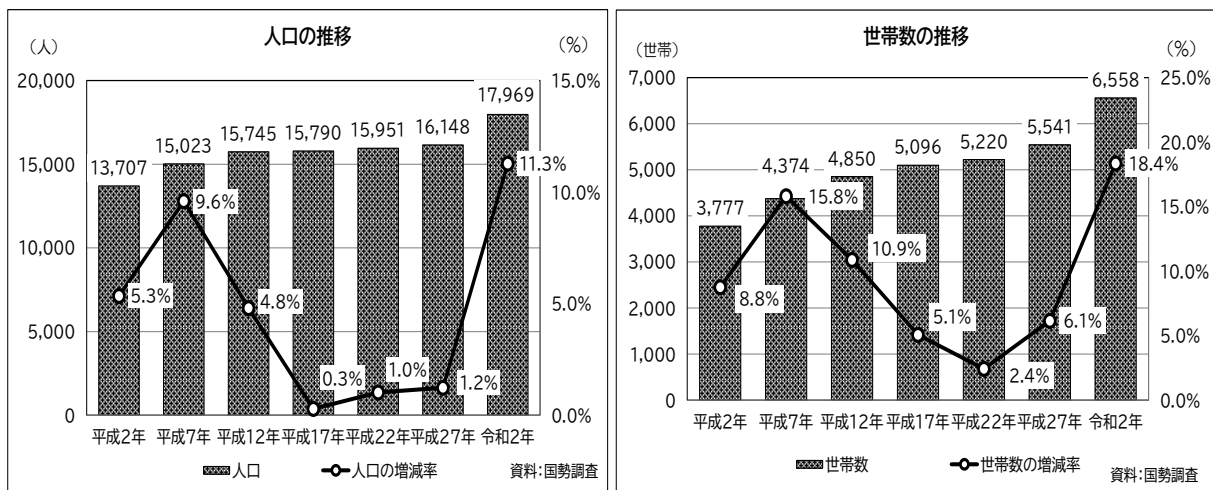
(1)人口・世帯の動向

1)人口世帯数の推移

令和 2 年の国勢調査による本村の人口は 17,969 人、世帯数は 6,558 世帯となっており、平成 2 年に比べ人口は 4,262 人、世帯は 2,781 世帯増加しています。

人口および世帯数は年々増加しており、平成 27 年からの 5 年間の人口の増減率 11.3%は全国 8 位となっています。

一方、一世帯あたりの人員は減少傾向で推移し 2.7 人となっています。



人口と世帯数の推移

単位:人、世帯、%

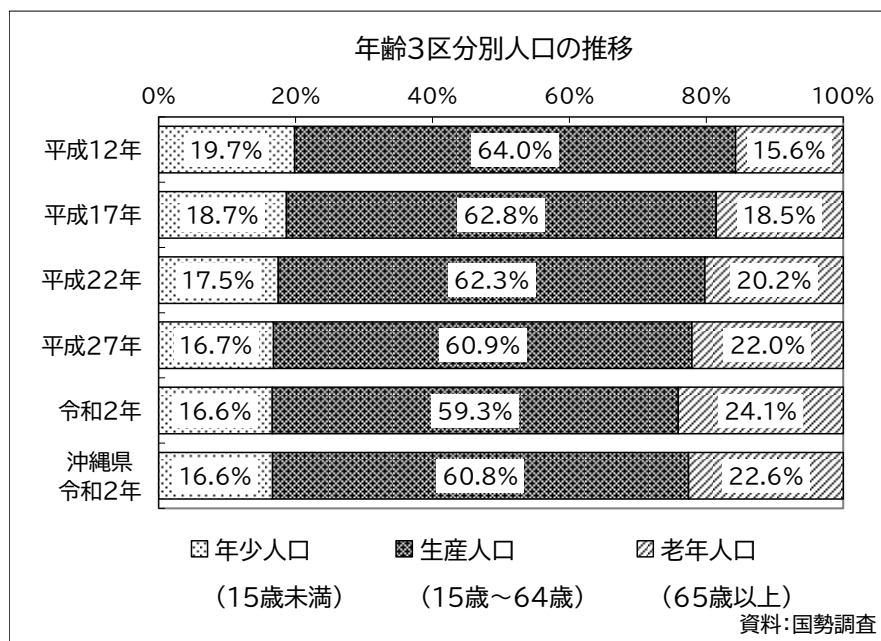
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	13,707	15,023	15,745	15,790	15,951	16,148	17,969
世帯数	3,777	4,374	4,850	5,096	5,220	5,541	6,558
人口の増減率	5.3%	9.6%	4.8%	0.3%	1.0%	1.2%	11.3%
世帯数の増減率	8.8%	15.8%	10.9%	5.1%	2.4%	6.1%	18.4%
一世帯あたりの人員	3.6	3.4	3.2	3.1	3.1	2.9	2.7

資料:国勢調査

2)年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口(15 歳未満)および生産人口(15 歳～64 歳)割合は減少している一方で、老年人口(65 歳以上)は毎年増え続け、総人口に対する割合は平成 12 年が 15.6%、令和 2 年が 24.1%で 8.5 ポイント高くなっており、本村でも少子高齢化が進んでいます。

沖縄県の値と比較すると、年少人口(15 歳未満)および生産人口(15 歳～64 歳)においては概ね等しいものの、老年人口(65 歳以上)の割合は 1.5 ポイント高くなっています。



年齢3区分別人口の推移

単位:人、%

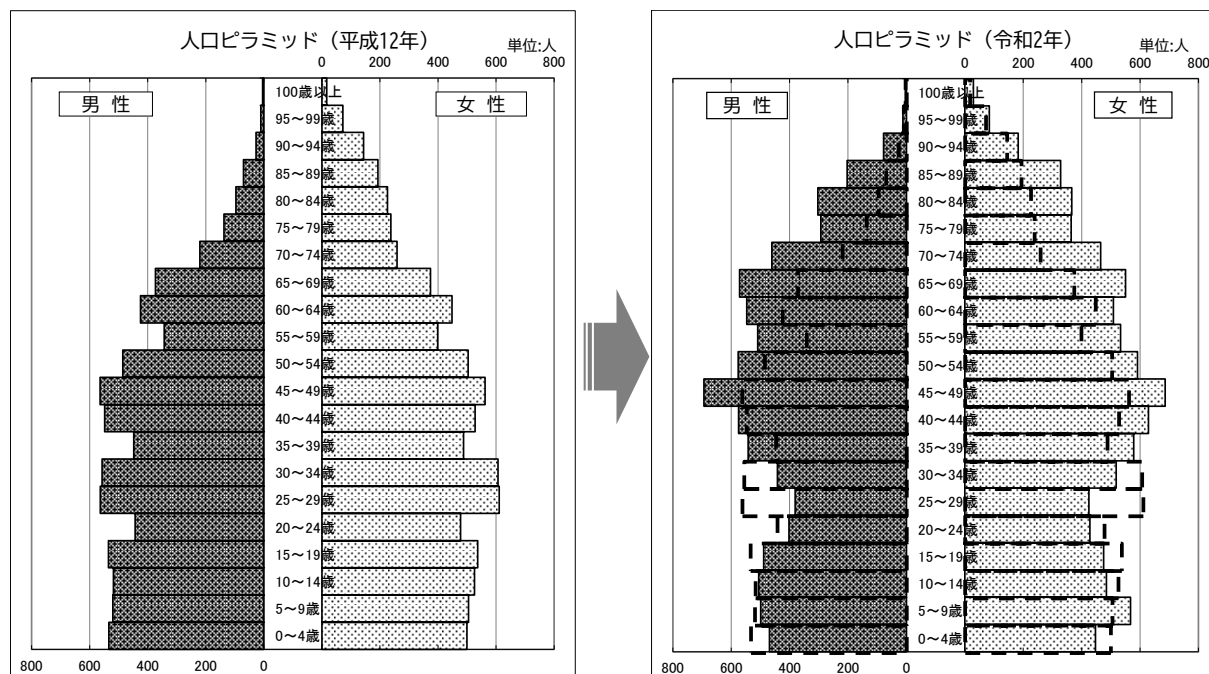
		総人口	年少人口 (15歳未満)	生産人口 (15歳～64歳)	老年人口 (65歳以上)
平成12年	人数	15,745	3,103	10,074	2,460
	割合	100.0%	19.7%	64.0%	15.6%
平成17年	人数	15,790	2,948	9,914	2,928
	割合	100.0%	18.7%	62.8%	18.5%
平成22年	人数	15,951	2,786	9,943	3,220
	割合	100.0%	17.5%	62.3%	20.2%
平成27年	人数	16,148	2,699	9,827	3,552
	割合	100.0%	16.7%	60.9%	22.0%
令和2年	人数	17,969	2,981	10,657	4,331
	割合	100.0%	16.6%	59.3%	24.1%
沖縄県 令和2年	人数	1,467,480	243,943	892,133	331,404
	割合	100.0%	16.6%	60.8%	22.6%

※総数には「不詳」を含まない

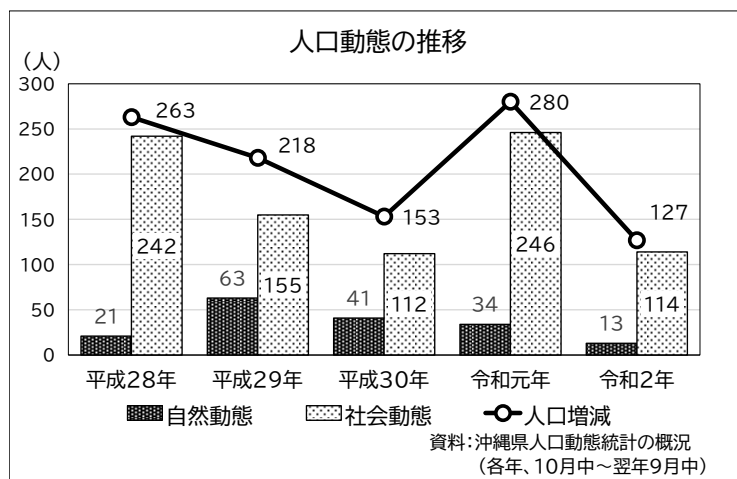
資料:国勢調査

3)人口動態の推移

平成12年と令和2年(点線部分は平成12年の人口)の人口ピラミッドを比較してみると、0歳～34歳の人口は減少し、35歳以上は増加しています。特に、老年人口(65歳以上)において増加がみられます。



本村の人口動態の推移をみると、出生数が死亡数を上回る「自然増」、転入数が転出数を上回る「社会増」が続いており、人口動態は増加が続いています。



人口動態の推移	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成28年	158	137	21	1,193	951	242
平成29年	187	124	63	1,070	915	155
平成30年	181	140	41	1,124	1,012	112
令和元年	158	124	34	1,320	1,074	246
令和2年	159	146	13	1,072	958	114

資料：沖縄県人口動態統計の概況（各年、10月中～翌年9月中）

4)字別人口・世帯数の推移

本村の字別人口と世帯の推移をみると、人口および世帯ともに最も多い地域は「島袋」(5,105 人、2,249 世帯)で、次いで「安谷屋」(1,890 人、786 世帯)、「喜舎場」(1,841 人、739 世帯)と続いています。また、平成 30 年から令和 4 年までの 5 年間で最も増加しているのは、人口および世帯数ともに「ライカム」地域が最も増加しており、人口が 490 人、世帯数が 203 世帯増加している一方で、「県営北中城団地」では 61 人減少しています。

年齢3区分別でみると、年少人口では「ライカム地域」で122 人増加しているものの、「島袋」地域では 66 人減少しています。なお、高齢者人口では大きな増減はみられません。

平成30年 字別年齢3区分別人口・世帯数の状況

単位:人、世帯

行政区名	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~74歳)	高齢者人口 (75歳以上)	人口 合計	世帯数 合計
喜舎場	362	1,260	150	1,772	660
仲順	262	1,067	154	1,483	601
熱田	163	943	237	1,343	536
県営北中城団地	68	296	11	375	130
和仁屋	115	548	106	769	317
渡口	86	540	100	726	332
島袋	931	3,596	549	5,079	2,157
屋宜原	118	610	87	816	332
瑞慶覧	20	188	49	257	119
石平	30	252	63	345	166
安谷屋	321	1,398	203	1,922	768
荻道	84	431	77	592	236
大城	38	265	59	362	151
比嘉	17	149	30	196	94
軍施設内	27	25	0	52	23
美崎	199	617	22	838	335
ライカム	89	275	8	372	146
合計	2,930	12,460	1,905	17,299	7,103

資料:住民基本台帳(平成30年10月1日現在)

令和4年 字別人口・世帯数の状況

単位:人、世帯

行政区名	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~74歳)	高齢者人口 (75歳以上)	人口 合計	世帯数 合計
喜舎場	371	1,306	164	1,841	739
仲順	243	1,053	176	1,474	635
熱田	163	947	226	1,336	550
県営北中城団地	56	240	18	314	125
和仁屋	103	538	100	741	316
渡口	92	532	104	728	339
島袋	865	3,693	546	5,105	2,249
屋宜原	134	623	95	853	356
瑞慶覧	21	175	55	251	126
石平	41	239	49	329	170
安谷屋	308	1,366	216	1,890	786
荻道	86	422	82	590	247
大城	57	268	58	383	168
比嘉	18	160	39	217	127
軍施設内	21	29	0	50	21
美崎	204	704	37	945	406
ライカム	211	628	23	862	349
合計	2,994	12,923	1,988	17,909	7,709

資料:住民基本台帳(令和4年10月1日現在)

5年間(H30年~R4年)の増減数

単位:人、世帯

行政区名	年少人口 増減数	生産年齢人口 増減数	高齢者人口 増減数	人口 増減数	世帯数 増減数
喜舎場	9	46	14	69	79
仲順	-19	-14	22	-9	34
熱田	0	4	-11	-7	14
県営北中城団地	-12	-56	7	-61	-5
和仁屋	-12	-10	-6	-28	-1
渡口	6	-8	4	2	7
島袋	-66	97	-3	26	92
屋宜原	16	13	8	37	24
瑞慶覧	1	-13	6	-6	7
石平	11	-13	-14	-16	4
安谷屋	-13	-32	13	-32	18
荻道	2	-9	5	-2	11
大城	19	3	-1	21	17
比嘉	1	11	9	21	33
軍施設内	-6	4	0	-2	-2
美崎	5	87	15	107	71
ライカム	122	353	15	490	203
合計	64	463	83	610	606

5)在住外国人の状況

本村の在住外国人総数は383人で、総人口に占める外国人の割合は2.1%となっており、近隣市町村では北谷町の2.8%に次いで高くなっています。

国籍別の在住外国人数は、アメリカ国籍者が160人で最も多く、次いでフィリピン国籍者(69人)、その他国籍者(50人)と続いています。

在住外国人の状況

単位:人

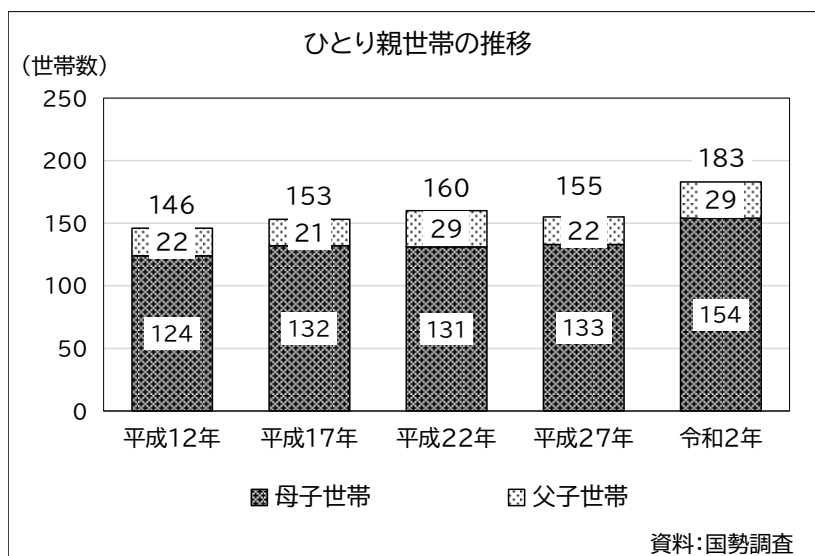
	外国人総数														
		総人口に占める外国人の割合	韓国、朝鮮	中国	フィリピン	タイ	インドネシア	ベトナム	インド	ネパール	イギリス	アメリカ	ブラジル	ペルー	その他
沖縄県	18,157	1.2%	1,181	3,007	1,900	162	705	2,481	232	1,994	166	2,886	454	221	2,768
北中城村	383	2.1%	5	15	69	7	1	11	42	2	2	160	8	11	50
沖縄市	1,993	1.4%	94	194	310	13	36	246	60	10	14	680	60	58	218
うるま市	1,357	1.1%	44	84	138	6	21	222	20	54	5	329	20	41	373
宜野湾市	1,572	1.6%	96	317	351	8	31	173	5	43	14	289	93	4	148
北谷町	787	2.8%	44	90	158	14	4	14	18	17	10	257	64	9	88
中城村	329	1.5%	13	45	12	3	10	96	-	8	1	51	3	5	82

資料:国勢調査



(2)子どもを取り巻く状況

ひとり親世帯の推移をみると、令和2年の母子世帯は154世帯、父子世帯は29世帯となっており、母子世帯は増加傾向にあり、父子世帯は20世帯台で推移しています。



令和3年の離婚件数は32件となっています。

離婚率(人口千対)をみると、令和元年以降減少しており全国平均よりは高いものの沖縄県や中部地区と比較すると、おおむね低くなっています。

離婚件数の推移

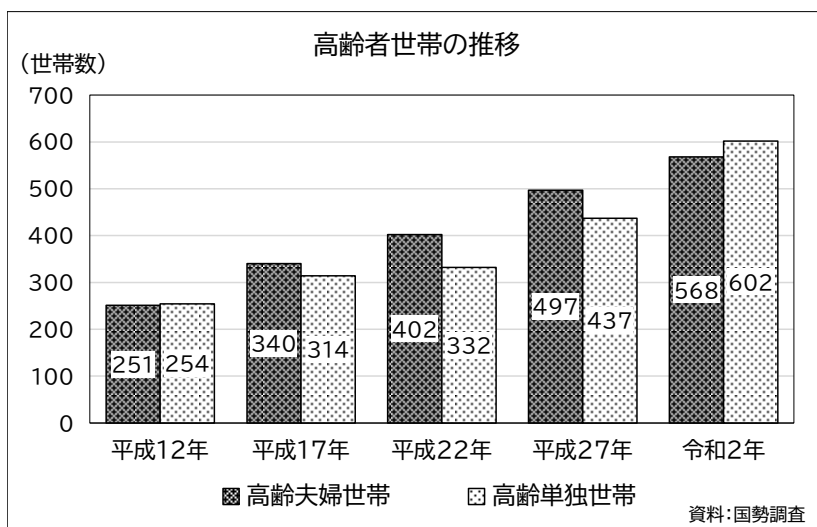
	離婚件数 北中城村	離婚率(人口千対)			
		北中城村	中部地区	沖縄県	全国
平成29年	32	1.96	2.52	2.44	1.70
平成30年	51	3.14	2.77	2.53	1.68
令和元年	41	2.50	2.63	2.52	1.69
令和2年	40	2.26	2.51	2.36	1.57
令和3年	32	1.81	2.29	2.20	1.50

資料:人口動態統計の概況・衛生統計年報



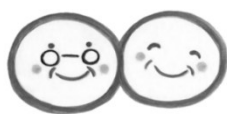
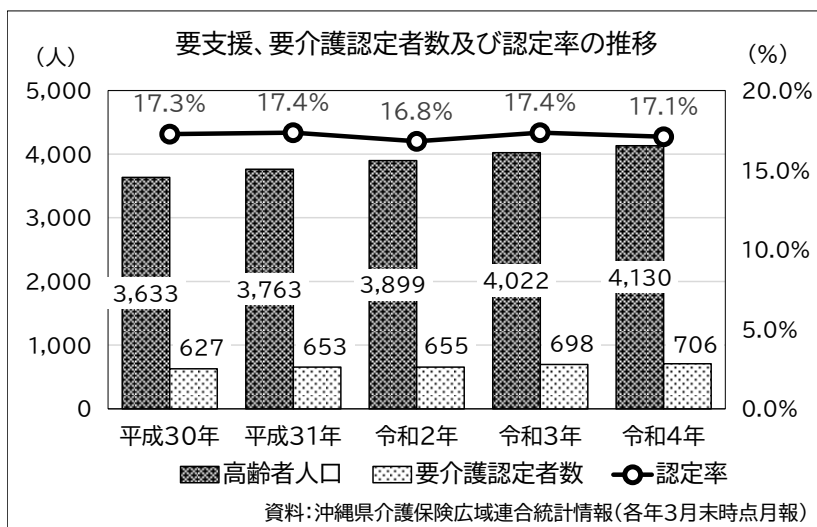
(3)高齢者を取り巻く状況

高齢者世帯の推移をみると、令和 2 年の高齢夫婦世帯は 568 世帯、高齢単独世帯は 602 世帯となり、高齢夫婦世帯および高齢単独世帯ともに増加しています。



要支援、要介護認定者数および認定率の推移をみると、令和 4 年の要介護認定者数は 706 人で認定率は 17.1%となっています。

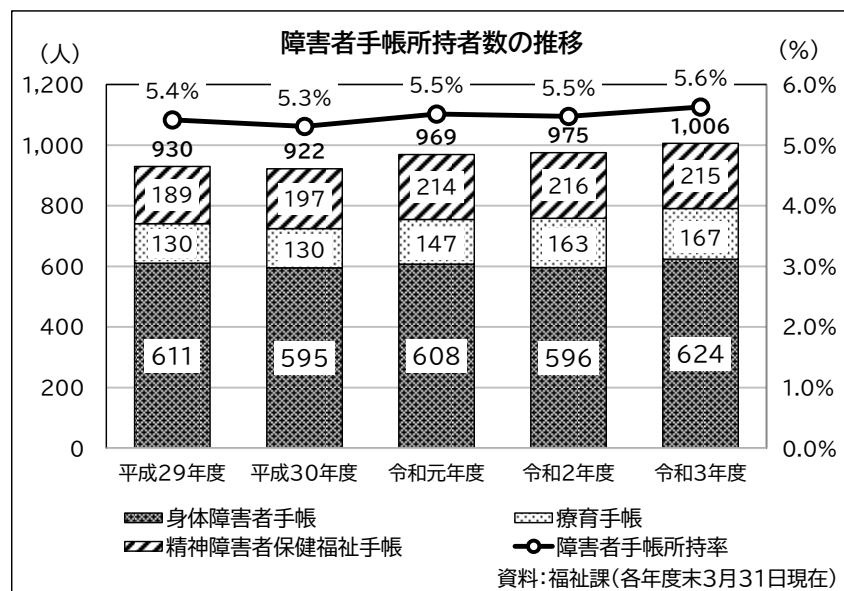
認定率の推移をみるとおおむね横ばいとなっています。



(4)障害手帳所持者数の状況

1)障がい者の状況

障害者手帳所持者数の推移をみると、令和 3 年度は 1,006 人で村人口の 5.6%となっており、増減をくり返しながら微増傾向で推移しています。そのうち、身体障害者手帳は 624 人、療育手帳は 167 人、精神障害者保健福祉手帳は 215 人となっています。



障害者手帳所持者数の推移

単位:人、%

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
身体障害者手帳	611	595	608	596	624
療育手帳	130	130	147	163	167
精神障害者保健福祉手帳	189	197	214	216	215
障害者手帳所持総数	930	922	969	975	1,006
村住民基本台帳人口	17,162	17,360	17,577	17,806	17,865
障害者手帳所持率	5.4%	5.3%	5.5%	5.5%	5.6%

資料:福祉課(各年度末3月31日現在)

2)障害別身体障害者手帳所持者数

障害別の身体障害者手帳所持者数の推移をみると、平成 29 年度から令和 3 年度の 5 年間で 13 人増加しています。

障害種別では、肢体不自由と内部機能障害で 8 割を占めています。

障害別身体障害者手帳所持者数の推移

単位:人

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
視覚障害	31	33	32	31	34
聴覚・平衡機能障害	70	68	72	68	76
音声・言語・そしゃく機能障害	3	3	4	4	5
肢体不自由(上・下・体幹)	250	249	247	242	247
内部機能障害	257	242	253	251	262
合 計	611	595	608	596	624

資料:福祉課(各年度末3月31日現在)

3)障害程度別療育手帳所持者数(知的障がい者)

障害程度の療育手帳所持者数の推移をみると、平成 29 年度から令和 3 年度の 5 年間で 37 人増加しています。

等級別では、「B2(軽度)」が最も多く 65 人、「B1(中度)」が 43 人、「A2(重度)」が 39 人、「A1(最重度)」が 20 人となっています。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
A1(最重度)	17	17	18	19	20
A2(重度)	34	34	39	40	39
B1(中度)	34	35	37	41	43
B2(軽度)	45	44	53	63	65
合 計	130	130	147	163	167

資料:福祉課(各年度末3月31日現在)

4)等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

等級別の精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移をみると、平成 29 年度から令和 3 年度の 5 年間で 26 人増加しています。

等級別では、「2 級」が最も多く 121 人、「1 級」が 56 人、「3 級」が 38 人となっています。

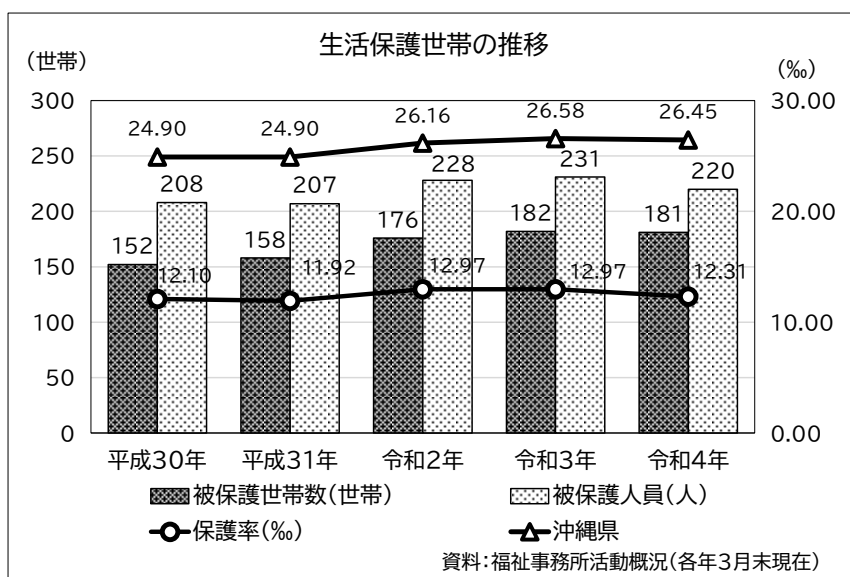
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1級	60	64	70	63	56
2級	98	98	106	113	121
3級	31	35	38	40	38
合 計	189	197	214	216	215

資料:福祉課(各年度末3月31日現在)

(5)生活保護世帯の状況

生活保護世帯の推移をみると、被保護世帯および被保護人員ともに令和 3 年まで増加傾向で推移していましたが、令和 4 年は減少に転じており、被保護世帯数は 181 世帯、被保護人員は 220 人となっています。

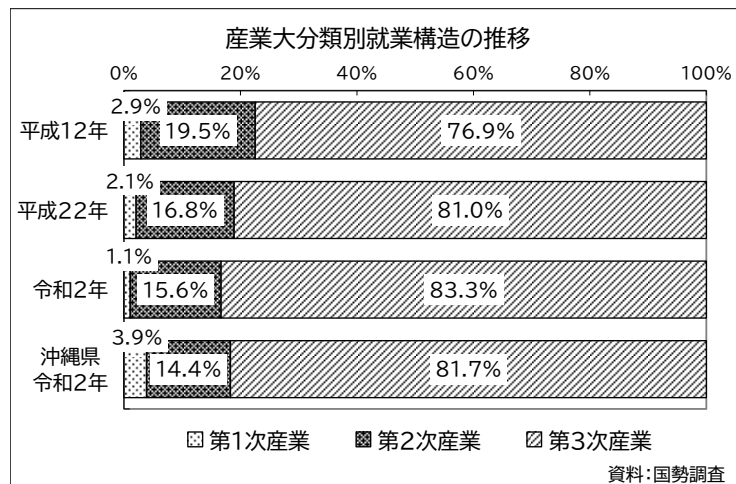
保護率は 11%~12%台で推移しており、各年沖縄県より大幅に下回っています。



(6)就業の状況

就業構造を大分類でみると、平成12年の第3次産業の割合は8割近く(76.9%)でしたが増加を続け、令和2年では8割(83.3%)を超えています。以下、第2次産業(15.6%)、第1次産業(1.1%)と続いています。沖縄県と比較すると、第1次産業の割合が若干低いものの、それ以外では、ほぼ同様の就業構造となっています。

内訳をみると、「医療・福祉」が1,478人と2割近く(18.0%)で最も高く、次いで「卸売・小売業」(15.8%)、「建設業」(11.6%)、「サービス業(他に分類されないもの)」(9.7%)と続いています。



産業別就業の構造(大分類)

単位: 人、%

	令和2年			
	北中城村	割合(%)	沖縄県	割合(%)
総数	8,200	100.0%	730,954	100.0%
第1次産業	92	1.1%	28,223	3.9%
農業	80	1.0%	25,347	3.5%
漁業	12	0.1%	2,876	0.4%
第2次産業	1,281	15.6%	105,387	14.4%
鉱業, 採石業, 砂利採取業	5	0.1%	356	0.0%
建設業	952	11.6%	69,398	9.5%
製造業	324	4.0%	35,633	4.9%
第3次産業	6,827	83.3%	597,344	81.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	48	0.6%	4,094	0.6%
情報通信業	185	2.3%	19,191	2.6%
運輸業, 郵便業	312	3.8%	33,919	4.6%
卸売業, 小売業	1,299	15.8%	108,285	14.8%
金融業, 保険業	139	1.7%	14,509	2.0%
不動産業, 物品賃貸業	181	2.2%	17,820	2.4%
学術研究, 専門・技術サービス業	335	4.1%	24,591	3.4%
宿泊業, 飲食サービス業	650	7.9%	62,082	8.5%
生活関連サービス業, 娯楽業	293	3.6%	29,128	4.0%
教育, 学習支援業	571	7.0%	44,875	6.1%
医療, 福祉	1,478	18.0%	119,119	16.3%
複合サービス事業	71	0.9%	6,243	0.9%
サービス業(他に分類されないもの)	792	9.7%	67,154	9.2%
公務(他に分類されるものを除く)	473	5.8%	46,334	6.3%

資料: 国勢調査

(7)福祉関連施設の立地状況

福祉関連施設の立地状況(※重複あり)をみると、公共・公的施設等が44箇所、子育て関連活動拠点33箇所、高齢者関連活動拠点が23箇所、障害者関連活動拠点が20箇所、健康づくり関連活動拠点が16箇所となっており、各字の集落内または集落に隣接して配置されています。

1)公共・公的施設等

図面番号	名 称	住所(字)	備考
1	北中城村役場	喜舎場426-2	
2	北中城村総合社会福祉センター	仲順451	村社会福祉協議会、村民生委員児童委員協議会、村身体障害者協会、村老人クラブ連合会、村母子寡婦福祉会、村赤十字奉仕団事務所
3	北中城村民体育館	ライカム638	
4	北中城村しおさい公苑	熱田2070-7	
5	北中城村若松公園	安谷屋131	
6	北中城村渡口みどり公園	渡口362	
7	北中城村渡口多目的広場	渡口457-1	
8	村立喜舎場保育所	喜舎場240	公立保育所
9	つなぐ認定こども園	喜舎場1034	保育所型認定こども園
10	百登保育園	島袋1927-1	認可保育所
11	すてらこども園	仲順376-11	幼保連携型認定こども園
12	もりのなかま保育園 北中城園	喜舎場260-10	認可保育所
13	認定こども園ライカム煌保育園	ライカム444	保育所型認定こども園
14	ピーターパン沖縄ライカム	ライカム1 イオンモール沖縄ライカム 内2階	地域型保育(事業所内保育所)
15	みらいっば保育園(仮称)	屋宜原725	小規模保育事業(R5.4月開所予定)
16	島袋児童館	島袋215	
17	子育て支援センター きたなかぐすく	喜舎場241	
18	北中城村地域ゆいまーる創造館	渡口457-3	
19	老人デイサービスセンター しおさい	美崎262	
20	村立 北中城幼稚園	喜舎場255-1	
21	アリス幼稚園	美崎163	幼保連携型認定こども園
22	村立 北中城小学校	喜舎場1	
23	村立 島袋小学校	島袋1234	
24	沖縄三育小学校	荻道275-1	私立
25	村立 北中城中学校	喜舎場306	
26	沖縄県立 北中城高等学校	渡口1997-13	
27	沖縄県立 沖縄ろう学校(幼稚部～高等部)	屋宜原415	特別支援学校:聴覚障害
28	あやかりの杜	喜舎場1214	
29	村立 中央公民館	仲順435	
30	喜舎場公民館	喜舎場75	
31	仲順公民館 仲順児童館	仲順60 仲順60	
32	熱田公民館	熱田67	
33	和仁屋公民館	和仁屋174	
34	渡口公民館	渡口55	
35	島袋公民館	島袋102	
36	屋宜原公民館	屋宜原620	
37	瑞慶覧公民館	瑞慶覧416	
38	石平公民館	安谷屋2151	
39	安谷屋公民館	安谷屋223	
40	荻道公民館	荻道79	
41	大城公民館	大城86	
42	県営北中城団地集会所	熱田2070-15	
43	美崎集会所	美崎209	
44	北中城郵便局	喜舎場386-2	

※同一住所に複数の施設がある場合は同じ番号とする

2)子育て関連活動拠点

図面番号	名 称	住所(字)	備考
1	村立喜舎場保育所	喜舎場240	公立保育所
2	つなぐ認定こども園	喜舎場1034	保育所型認定こども園
3	百登保育園	島袋1927-1	認可保育所
4	すてらこども園	仲順376-11	幼保連携型認定こども園
	すてら学童クラブ		学童クラブ
5	アリス幼稚園	美崎163	幼保連携型認定こども園
6	もりのなかま保育園 北中城園	喜舎場260-10	認可保育所
	もりのなかま保育園 喜舎場ひよこ園	喜舎場260-10 2階	認可外保育園(企業主導型)
7	認定こども園ライカム煌保育園	ライカム444	保育所型認定こども園
8	ピーターバン沖縄ライカム	ライカム1 イオンモール沖縄ライカム 内2階	地域型保育(事業所内保育所)
9	みらいっぼ保育園(仮称)	屋宜原725	小規模保育事業(R5.4月開所予定)
	みらいっぼ保育園		認可外保育園
10	リトルエンジェルズ	島袋530-1	認可外保育園
11	キッズキャンパス	屋宜原715-2	〃
12	わくわく未来こども園	島袋18-17	〃
13	ハーモニーキッズ オキナワ	荻道269-3	〃
14	クリエイティブマインド インターナショナルプレスクール	仲順370	〃
15	なかま結保育園	荻道270	〃
16	みどりのひだまり保育園Baby	島袋1225-1	認可外保育園(企業主導型)
17	みどりのひだまり保育園Kids	島袋1222-1	〃
18	子育て支援センター きたなかぐすく	喜舎場241	地域子育て支援センター
19	喜舎場公民館	喜舎場75	ふれあい子育てサロン
20	島袋公民館	島袋102	〃
21	安谷屋公民館	安谷屋223	〃
22	北中城村総合社会福祉センター	仲順451	〃
23	島袋児童館	島袋215	ふれあい子育てサロン、児童館
24	和仁屋公民館	和仁屋174	ふれあい子育てサロン
25	大城公民館	大城86	〃
26	学童ふれあいクラブ(旧 パークサイド児童学園)	安谷屋1067-2	学童クラブ
27	アリス学童クラブ	美崎148	〃
28	大空子どもくらぶ	安谷屋1422-2	〃
29	はにんすキッズ学童	仲順228-1	〃
30	しまぶく学童クラブ	島袋1099-1	〃
31	仲順児童館	仲順60	児童館
32	村立 北中城小学校	喜舎場1	放課後子ども教室
33	村立 島袋小学校	島袋1234	〃

※同一住所に複数の施設がある場合は同じ番号とする



3)高齢者関連活動拠点

図面番号	名 称	住所(字)	備考
1	北中城村地域包括支援センター(北中城村役場内)	喜舎場426-2	予防支援、介護予防ケアマネジメント
2	老人デイサービスセンター しおさい	美崎262	
3	ソーシャルワーク&ケアマネジメント ケアプランニング らいふりい	喜舎場167-2	居宅介護支援
4	グループホーム わかまつ	喜舎場360-1	認知症対応型共同生活介護 ほか
	ケアプランステーション ゆい		居宅介護支援
	ファミリークリニックきたなかぐすく		介護予防居宅療養管理指導、 介護予防訪問リハビリテーション ほか
5	あさひ薬局	喜舎場360-4	居宅療養管理指導、 介護予防居宅療養管理指導
6	有料老人ホーム あーさのさと	仲順231-1	有料老人ホーム(住宅型)、通所介護
7	アカラ居宅介護支援事業所	仲順275 T103	居宅介護支援
8	介護相談事業所きたなか	仲順366-1	居宅介護支援
9	シルバーホーム福德	仲順375-1	有料老人ホーム(住宅型)、 通所介護 ほか
10	短期入所生活介護 彩風の杜	仲順544-1	短期入所生活介護
11	デイサービス 愛	熱田598	通所介護
12	ワンアップ北中城店	美崎7	通所介護、通所型サービス(独自)
13	ごきげんリハビリクリニック	島袋1253-4	介護予防通所リハビリテーション、 通所リハビリテーション ほか
14	特別養護老人ホーム 愛の村	島袋1320	介護老人福祉施設、居宅介護支援 ほか
15	訪問介護ステーション ゆーかり	島袋1385-5 101	訪問介護、訪問型サービス(独自/定率)
16	すこやか薬局ライカム店	比嘉494-1	介護予防居宅療養管理指導、 居宅療養管理指導
17	日本調剤中部薬局	比嘉595-3 102	介護予防居宅療養管理指導、 居宅療養管理指導
18	中部徳洲会病院	比嘉801	介護予防訪問リハビリテーション、 訪問リハビリテーション ほか
19	看護小規模多機能ホーム若松きたなかぐすく	安谷屋1346-1	複合型サービス(看護小規模多機能型) ほか
20	居宅介護支援事業所 敬福	安谷屋2144-13 1F	居宅介護支援
21	北中城若松病院	大城311	居宅療養管理指導
	訪問看護ステーション北中城		介護予防訪問看護、訪問看護
22	介護老人保健施設 若松苑	大城327	介護老人保健施設、短期入所療養介護 ほか
	若松苑 訪問リハビリテーション		介護予防訪問リハビリテーション、 訪問リハビリテーション
	若松苑デイサービス		通所介護、通所型サービス(独自)
23	ケアプランステーション りん	仲順226	居宅介護支援

※同一住所に複数事業所がある場合は、主たる事業所名を記載し同じ番号とする



4)障害者関連活動拠点

図面番号	名 称	住所(字)	備考
1	北中城村地域ゆいまーる創造館	渡口457-3	地域活動支援センター事業
	障害者地域活動支援センターあざみ		
	北中城村社会福祉協議会 特定相談支援事業所		計画相談支援
2	生活介護センター 彩風の杜きたなか	仲順544-1	生活介護
	沖縄中央療護園		短期入所、生活介護、施設入所支援
3	ヘルパーステーション若松	安谷屋1346-1	居宅介護、重度訪問介護
4	TEAM VILLAGE	熱田277	就労継続支援A型
5	サポートセンターみさき	大城170	就労継続支援B型
6	楽学喜サポートアチェンド kitanakaOffice	安谷屋2191-4	就労継続支援B型
	楽学喜サポートアチェンド 音市場		生活介護
7	ヘルパーステーション ちむちむ	喜舎場399-1 1FA号	居宅介護、重度訪問介護、同行援護
8	ヘルパーステーションふくとく	仲順375-1	居宅介護、重度訪問介護
9	いーまーる沖縄	比嘉596-2 401号	共同生活援助
10	居宅介護事業所かのん	安谷屋1147 3F	居宅介護、重度訪問介護、行動援護
	相談支援事業所もですと		計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援、障害児相談支援
	北中はごろも支援センター		生活介護
11	相談支援センター あやはな	瑞慶覧525 203号	計画相談支援、障害児相談支援
12	訪問介護ステーション ゆーかり	島袋1385-5 101号	居宅介護、重度訪問介護
13	生活介護フレンズハウス	安谷屋589-1	生活介護
14	べるワークス	屋宜原615-1	就労継続支援B型
15	就労サポーター さんご	仲順451	就労継続支援B型
16	療育センター 結gift	屋宜原245-8	放課後等デイサービス
17	こどもる一む ぎふときっずきらり	島袋188	児童発達支援、放課後等デイサービス
18	しあわせ駅 北中城	喜舎場350	児童発達支援、放課後等デイサービス
19	おしごとれんしゅう教室	島袋325-2 2F	放課後等デイサービス
20	Alivio	島袋19	児童発達支援、放課後等デイサービス

※同一住所に複数の施設がある場合は同じ番号とする

5)健康づくり関連活動拠点(健診場所(各公民館)、公園など)

図面番号	名 称	住所(字)	備考
1	村立 中央公民館	仲順435	村民健診、婦人健診、乳児、1歳6ヵ月、3歳児、歯科
2	仲順公民館	仲順60	自主体操サークル
3	熱田公民館	熱田67	自主体操サークル
4	県営北中城団地集会所	熱田2070-15	自主体操サークル
5	屋宜原公民館	屋宜原620	自主体操サークル
6	瑞慶覧公民館	瑞慶覧416	自主体操サークル
7	石平公民館	安谷屋2151	自主体操サークル
8	荻道公民館	荻道79	自主体操サークル
9	美崎公民館	美崎266	自主体操サークル
10	和仁屋公民館	和仁屋174	自主体操サークル
11	安谷屋公民館	安谷屋223	自主体操サークル
12	北中城村民体育館	ライカム638	
13	北中城村しおさい公苑	熱田2070-7	
14	北中城村若松公園	安谷屋131	
15	北中城村渡口みどり公園	渡口362	
16	北中城村渡口多目的広場	渡口457-1	

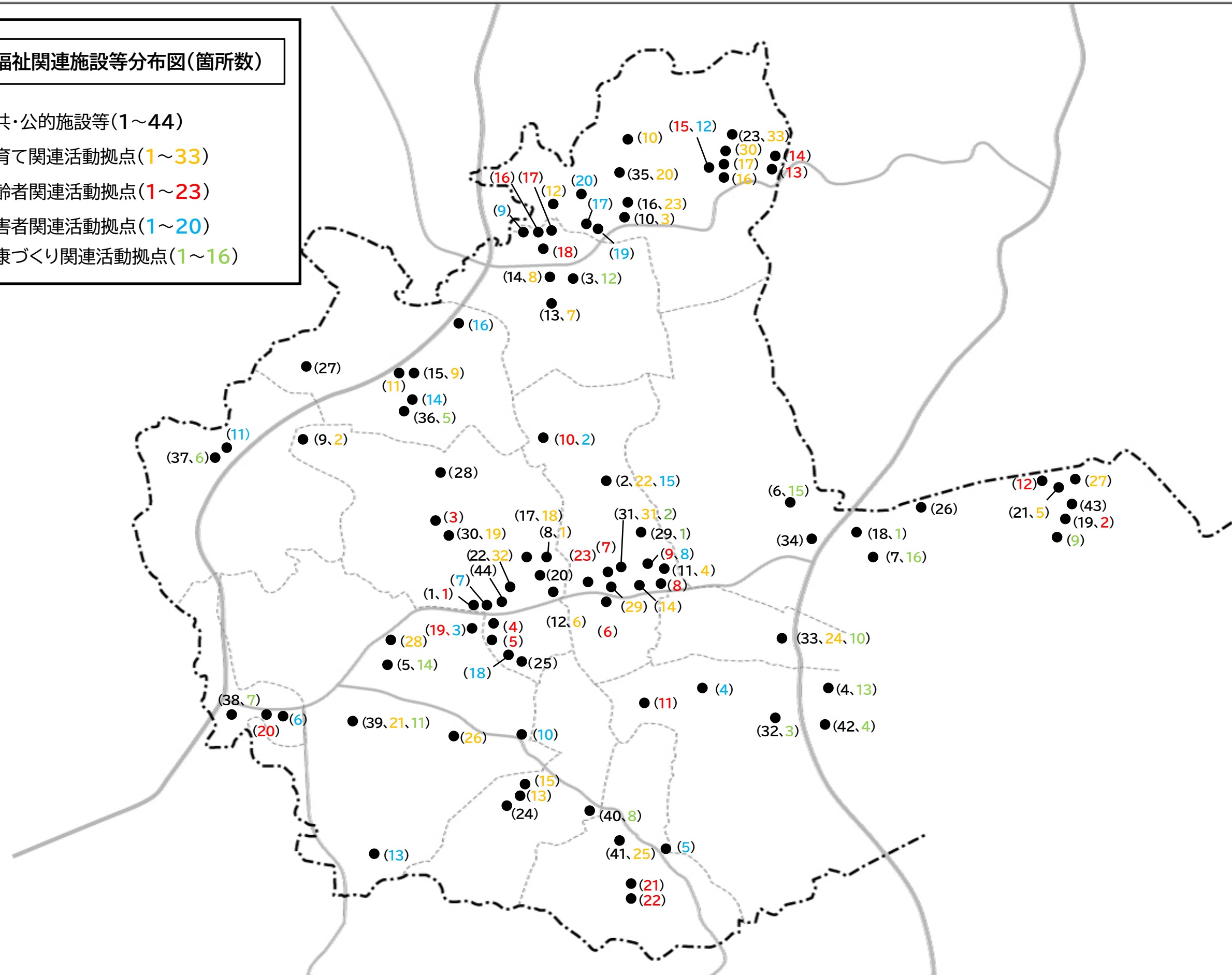
福祉関連施設等分布図(箇所数)

子育て関連活動拠点(1～33)

高齢者関連活動拠点(1～23)

障害者関連活動拠点(1～20)

健康づくり関連活動拠点(1~16)



(8)各種団体等の活動状況

1)地域住民団体の状況

北中城村には 14 の自治会があり、世帯の加入割合は村全体で 45.5%となっています。県営団地が97.6%で最も高く、次いで、荻道62.3%、熱田61.5%と続いています。最も低い地域は和仁屋で22.2%となっています。

老人クラブは村内10自治会、婦人会は2自治会、青年会は9自治会、子ども会は渡口を除き13自治会で組織されています。

地域団体等の状況

	自治会			老人クラブ		婦人会		青年会		子ども会	
	加入会員 (世帯)	住民登録 世帯	加入率 (%)	団体数	会員数 (人)	団体数	会員数 (人)	団体数	会員数 (人)	団体数	会員数 (人)
喜 舎 場	430	739	58.2%	1	120	1	70	1	12	1	113
仲 順	304	635	47.9%	1	98	1	24	1	25	1	172
熱 田	338	550	61.5%	1	133	0	0	1	18	1	19
県営北中城団地	122	125	97.6%	0	0	0	0	0	0	1	48
和 仁 屋	70	316	22.2%	1	71	0	0	1	19	1	30
渡 口	165	339	48.7%	1	60	0	0	0	0	0	0
島 袋	904	2373	38.1%	1	150	0	0	1	30	1	431
屋 宜 原	130	356	36.5%	1	103	0	0	1	5	1	20
瑞 慶 覧	50	126	39.7%	0	0	0	0	0	0	1	53
石 平	81	170	47.6%	1	47	0	0	1	11	1	11
安 谷 屋	360	786	45.8%	1	121	0	0	1	20	1	74
荻 道	154	247	62.3%	0	0	0	0	1	8	1	70
大 城	102	168	60.7%	1	46	0	0	0	0	1	53
比 嘉	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0
軍 施 設 内	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0
美 崎	130	405	32.1%	0	0	0	0	0	0	1	3
ラ イ カ ム	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	3,340	7,335	45.5%	10	949	2	94	9	148	13	1,097

※「自治会」について

①比嘉は、島袋に含まれる

②軍施設内及びライカムは自治会なし

資料：各団体事務局等(令和4年10月1日現在)



2)各自治会における健康福祉人材の状況

民生委員・児童委員については、全ての14地域に配置していますが、32人の定員に対し27人の配置となっており、5人不足している状況です。

母子保健推進員の実人数16人の内、和仁屋・渡口地区兼任1名、島袋・比嘉地区兼任1名、瑞慶覧・荻道・大城地区兼任1名、安谷屋・石平地区兼任1名となっています。

そのほか、介護予防事業サポーターは9人、健康推進員が12人、友愛訪問員は22人となっています。

健康福祉人材の状況

単位:人

	民生委員 児童委員	母子保健 推進員	介護予防事業 サポーター	健康推進員	友愛訪問員	自治公民館 (名称確認)
喜 舎 場	4	2	1	2	3	喜舎場公民館
仲 順	3	1	3		2	仲順公民館
熱 田	2	1	1	2	3	熱田公民館
県営北中城団地	1	1	0	0	0	団地集会所
和 仁 屋	2	1	0	0	2	和仁屋公民館
渡 口	1	1	0	1	3	渡口公民館
島 袋	5	4	2	1	1	島袋公民館
屋 宜 原	1	1	0	1	2	屋宜原公民館
瑞 慶 覧	1	1	0	0	0	瑞慶覧公民館
石 平	1	1	0	0	2	石平公民館
安 谷 屋	1	2	1	2	2	安谷屋公民館
荻 道	1	1	0	1		農村集落センター
大 城	1	1	0	2	2	大城公民館
比 嘉	—	1	0	0	0	—
軍 施 設 内	—	—	—	—	—	—
美 崎	1	1	1	0	0	美崎公民館
ラ イ カ ム	—	1	0	0	0	—
合 計	25	21	9	12	22	

※複数の事業に携わる人材はそれぞれで計上

※介護予防事業サポーターの各字計上数値は実数

※母子保健推進員実人数16人

(内和仁屋・渡口地区兼任1名、島袋・比嘉地区兼任1名、瑞慶覧・荻道・大城地区兼任1名、安谷屋・石平地区兼任1名)

※健康推進員は地区担当制なし

※民生委員は、上記地区担当のほか、主任児童委員が2名(合計27名)

資料:福祉課(令和4年10月1日現在)



3) ボランティア団体の把握

現在、北中城村社会福祉協議会にボランティア団体として登録している団体は17団体となっています。活動内容は、地域の福祉活動、福祉施設への訪問、障がい者への支援等福祉活動が多くなっており、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方が関わっています。

北中城村社会福祉協議会登録ボランティア団体一覧表

	グループ名	活動内容	活動日・場所	設立年月日
1	ひまわりの会	介護保健施設若松苑で、 ・毎月1回の喫茶ボランティア ・毎週水曜日のおやつ作りの手伝い	・コロナ禍に入り活動休止中	平成13年 4月
2	舞の会	琉球舞踊、舞台披露ボランティア	・随 時	
3	手話サークル若松	手話学習 村の行事、社協の行事、各種団体行事等の手話通訳活動	・手話学習(毎週水曜日) 午後8時～10時 総合社会福祉センター	平成5年 10月28日
4	手話サークルかけ橋	手話学習 村の行事、社協の行事、各種団体行事等の手話通訳活動	・手話学習(毎週水曜日) 午後2時～4時 総合社会福祉センター	
5	朗読ボランティア サークルみみずく	声の広報誌作り	・村広報誌発行の日に集まる 総合社会福祉センター	平成14年 4月
6	うた声サークル虹	合唱披露ボランティア、各種団体行事等への参加	・歌発声活動(第2・第4月曜日) 午後2時～4時 総合福祉センター	平成26年 4月
7	草の根会	コロナ禍に入り古紙回収等のみの活動	・古紙回収(第4水曜日) 午前9時～12時 沖縄中央療護園	平成26年 4月
8	民生委員児童委員協議会	高齢者福祉部、障害者福祉部、児童福祉部に分かれ社協や行政等と協力し、地域福祉活動等を行う	・定例会(毎月第1水曜日) ※随時活動 午後2時～4時 総合福祉センター	
9	各字友愛訪問グループ	字の民生委員、婦人ボランティア、老人クラブボランティア独居のお年寄りや、寝たきりのお年寄りの家を訪問する	・1週間に1回～2週間に1回グループに分かれて訪問	平成15年 4月1日
10	村赤十字奉仕団	村、社協行事への協力 施設訪問 献血推進	・随 時	
11	村老人クラブ連合会	各字の老人クラブが輪番で中央公民館、総合社会福祉センターの草刈、美化活動。	・中央公民館 毎月第2金曜日 ・総合社会福祉センター 毎月第4金曜日	
12	北中城小学校	環境活動全般、地域活動全般、収集活動、募金活動への協力福祉行事への協力、施設訪問	・随 時	平成17年 9月指定校
13	島袋小学校	環境活動全般、地域活動全般、収集活動、募金活動への協力福祉行事への協力、施設訪問	・随 時	平成14年 4月指定校
14	北中城中学校	環境活動全般、地域活動全般、収集活動、募金活動への協力福祉行事への協力、施設訪問	・随 時	平成14年 4月指定校
15	北中城高等学校	ボランティア部活動、環境活動全般、地域活動全般、収集活動、福祉行事への協力	・随 時	平成26年 4月
16	沖縄三育小学校	環境活動全般、地域活動全般、収集活動、募金活動への協力福祉行事への協力、施設訪問	・随 時	平成26年 4月
17	ソーシャルワーク 専門学校	施設、地域活動	・随 時	平成20年 6月

4)NPO法人の状況

令和5年1月現在の北中城村内のNPO法人認定数は8団体となっており、そのうち「1.福祉関連の活動(保健、医療又は福祉の増進を図る活動)」に取り組んでいる団体は2団体で、4団体で「13.子どもの健全育成を図る活動」が行われています。

NPO法人一覧

法人名称 (設立認証年月日)	所在地	定款に記載された目的	活動の種類
地球環境共生ネットワーク (2002/7/11)	喜舎場	この法人は、有用微生物技術の活用を中心に、生ゴミ堆肥化の推進、自然農法の普及をはじめ、汚水処理、資源リサイクルの推進など、地球レベルの環境問題を解決するため、奉仕の精神に基づき、広く社会に寄与することを目的とする。	7
エンカレッジ (2007/12/7)	渡口	この法人は、生活保護世帯の子供(要保護)と要保護に準ずる程度に困窮していると認めた家庭の子供(準要保護)に対して、高度な教育機会を与える事業を行い、また一般の人々も含めての教育相談やシンポジウム等を行い、沖縄の教育レベル向上に寄与することを目的とする。	2、6、10、13、19
KID'sサポートいっぽ (2009/3/11)	和仁屋	この法人は、発達障がい児(者)に対して、ひとりひとりの個性を大切に自立訓練及び支援活動を行い、発達障がい児(者)の福祉の向上に寄与することを目的とする。	1、2、13
チーム北中城ネット (2010/9/27)	和仁屋	この法人は地域団体の活動や、あらゆる分野の様々な要求に答えられる活動ができるように、多様な人材の連携活用をはかり、新たに村民活動や事業活動を行うとする団体及び個人に対し、相互の情報交換をすることにより、地域住民の自発的な社会活動を推進し豊かなコミュニティづくりの形成に寄与することを目的とする。	2、3、6、13、19
おきなわ障がい者相談支援ネットワーク (2011/6/29)	安谷屋	この法人は沖縄県において障がい者の相談支援に携わるものに対し、必要な知識の習得や専門性向上のための研修事業を行い、また、その活動を支援・助言する事業を行うことで、障がい者の地域生活の向上に寄与することを目的とする。	1
アジア観光外国語学院 (2012/12/6)	ライカム	この法人は、沖縄県及び周辺アジア地域若年層に対して、観光ビジネス及び語学教育等に関する事業を行い、当該地域の経済活性化に寄与することを目的とする。	4、6、11、16、17
あやのふぁ (2013/9/26)	渡口	この法人は、途絶えつつある沖縄県のうちなぐちを次世代に引き継ぐため、うちなぐちの調査研究・指導者育成・新たな活用方法の開発・促進に関する事業を行い、その保存・継承を目的とする。	2、6、13、19
NPO法人 沖縄戦没者遺骨協議会 (2020/3/5)	喜舎場	この法人は、政治信条や宗教、国籍、人種等の違いを越えて戦没者となった方々の立場に立ち、沖縄県において未だに放置されている戦没者遺骨の現状や実態を広く社会に伝えるべく、情報発信や講演会活動を行い、並びに遺骨放置場所の調査やその拠点整備、遺骨の収容作業等を行うことを通して、沖縄県に放置されている遺骨の早期収容を目指し戦没者の慰霊や後継者の人材育成事業等の促進、沖縄の歴史、文化、伝統を守る活動に寄与することを目的とする。尚、遺骨収容にあたっては国籍・軍籍・民間人等を問わず全ての遺骨を収容し、それぞれの帰るべき所への返還に努め、沖縄古来の古墳に関しては慎重に取り扱うように万全を期するものとする。	2、10、11

資料・内閣府NPOホームページ(R5年1月17日現在)

1.保健、医療又は福祉の増進を図る活動 2.社会教育の推進を図る活動 3.まちづくりの推進を図る活動 4.観光の振興を図る活動 5.農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動 6.学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 7.環境の保全を図る活動 8.災害救援活動 9.地域安全活動 10.人権の擁護又は平和の推進を図る活動 11.国際協力の活動	12.男女共同参画社会の形成の促進を図る活動 13.子どもの健全育成を図る活動 14.情報化社会の発展を図る活動 15.科学技術の振興を図る活動 16.経済活動の活性化を図る活動 17.職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動 18.消費者の保護を図る活動 19.前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動 20.前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動
---	---

(9) 村内公共交通の利用実態

1) 路線バス

(a) 村内を通過する路線バスの概要

村内西部に位置する国道 330 号沿線及び村内中部に位置する沖縄自動車道の縦断方向の路線バス系統が充実しており、そのほか国道 330 号沿線、イオンモール沖縄ライカムバス停に広域路線が充実しています。更に、比嘉西原バス停には、基幹急行バスが停車します。

一方で、村内を東西に横断する路線や村内東部に位置する国道 329 号を通過する路線の系統は少ない状況となっています。また、域内移動を中心とした路線バス系統はなく、路線バスにおける域内移動は困難な状況にあります。

(b) 運行本数

国道 330 号においては、路線バスが上り方面に 282 便/日、下り方面に 281 便運行しており、バス利用の利便性が充実している状況となっています。

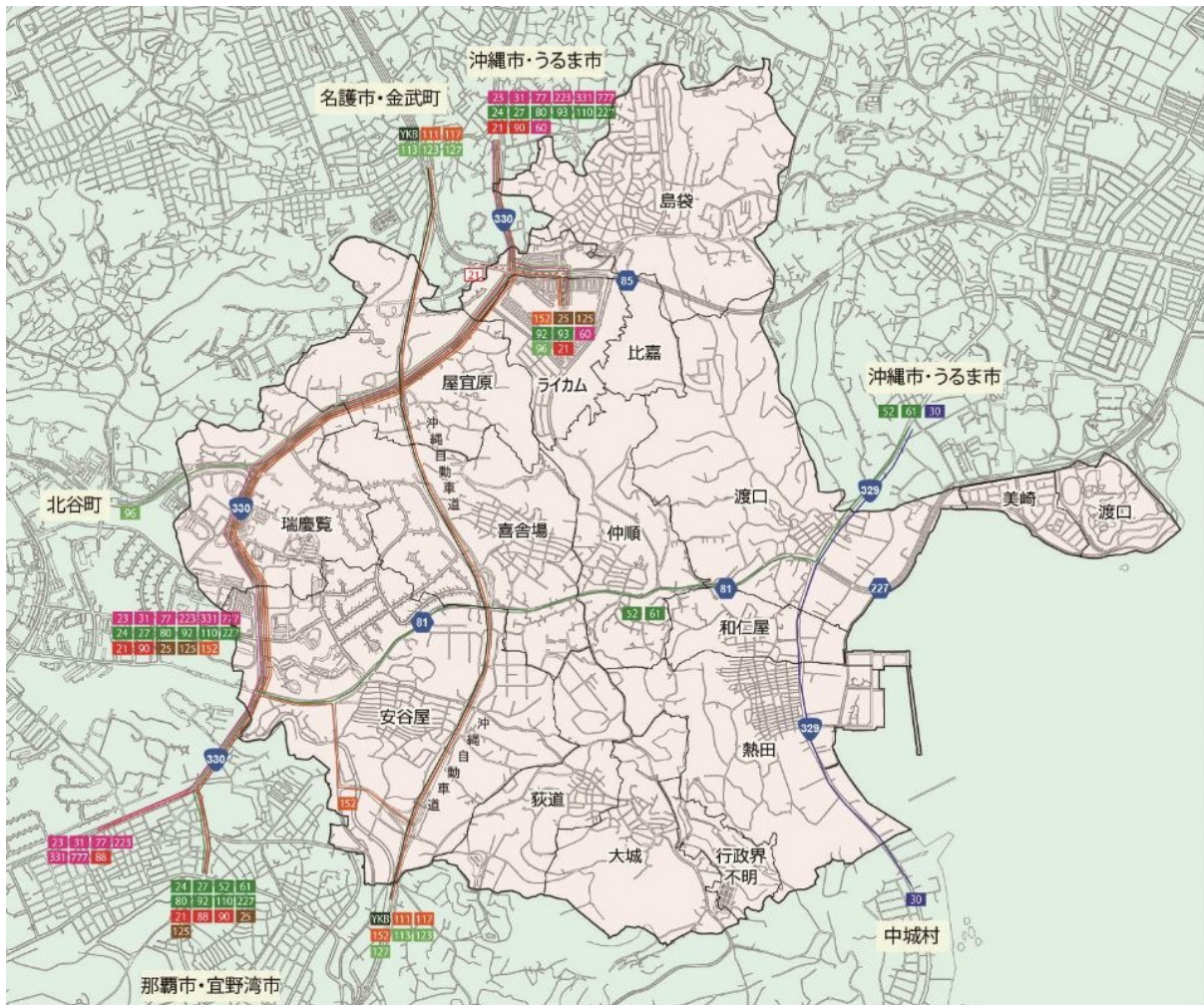
一方で、県道 81 号線及び国道 329 号沿線においては、上り 24～31 便/日となっており、国道 330 号と比較し、利便性は低い状況となっています。

北中城村を通過する路線バス系統

高速バス		基幹急行バス		一般			
111	高速バス	331	泡瀬西線	21	新都心具志川線	88	宜野湾線
117	高速バス	777	屋慶名線	24	那覇大謝名線	90	知花線
113	具志川空港線	77	名護東線	25	那覇普天間線	92	那覇～イオンモール線
123	石川空港線	23	具志川線	27	屋慶名線	93	屋慶名～イオンモール線
127	屋慶名高速線			30	泡瀬東線	96	北谷～イオンモール線
YKB	やんばる急行			31	泡瀬西線	110	長田具志川線
152	イオンモール沖縄ライカム(高速線)			52	与勝・前原線	125	普天間空港線
				60	泡瀬イオンモールライカム線	223	具志川おもろまち線
				61	前原線	227	屋慶名おもろまち線
				80	与那城線		

資料:福祉課(令和 3 年 11 月現在)

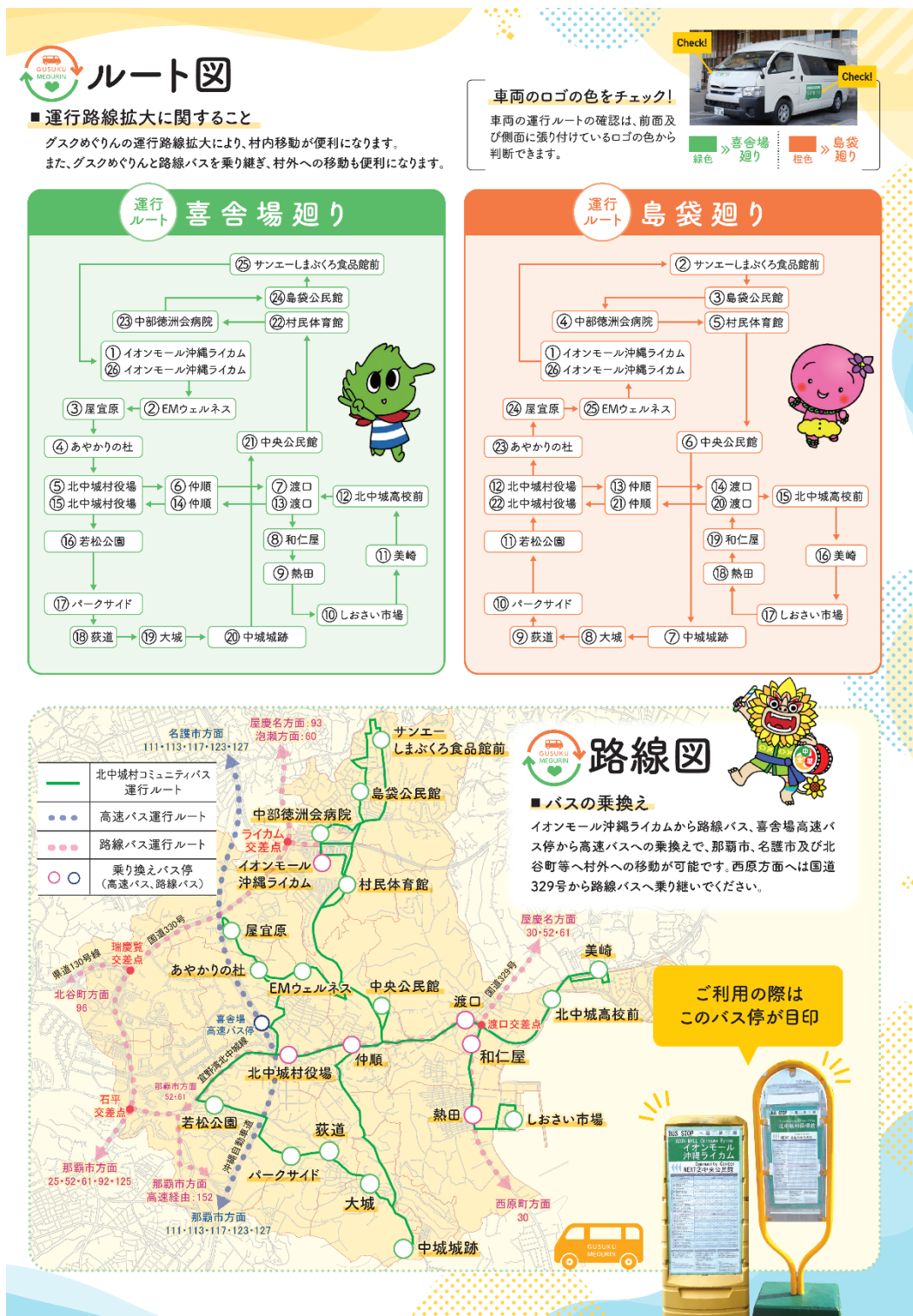
北中城村を通過する路線バスネットワーク



2)北中城村観光周遊バス実証実験(グスクめぐりん)

令和元年 11 月より「北中城村観光周遊バス実証実験」と称し、コミュニティバスの運行実証実験を行っています。

令和 4 年 11 月 7 日より新たに運行ルートの拡大による実証運行に取り組んでおり、村内の交通弱者に配慮した運行ルートを拡大しています。



資料:令和 3 年度北中城村観光周遊バス実証実験業務報告書

(10)権利擁護に関する事業の利用者の推移

1)那覇家庭裁判所における成年後見制度利用者の住所地

那覇家庭裁判所における成年後見制度利用者は、46 人となっており、そのうち後見が34 人、保佐が9 人、補助が3 人となっています。

那覇家庭裁判所における成年後見制度利用者の住所地

裁判所	本人の住所	法定後見				任意後見
		法定後見合計	うち後見	うち保佐	うち補助	
那覇家裁合計		3,189	2,735	350	98	0
本庁	管内合計	1,589	1,390	152	43	4
沖縄支部	管内合計	1,090	902	148	39	1
	北中城村	46	34	9	3	0
名護支部	管内合計	353	315	28	9	1
平良支部	管内合計	65	55	5	5	0
石垣支部	管内合計	92	73	17	2	0

※概数のため司法統計に基づくものではない。

資料：那覇家庭裁判所資料より(R4年10月1日現在)

2)成年後見制度村長申立の推移

北中城村の成年後見制度村長申立て件数は、高齢者で令和元年度に1 件、令和4 年度に3 件となっています。

成年後見制度 村長申立件数の推移

単位:件

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計
申立件数	1	0	0	3	4
高齢者	1	0	0	3	4
障害者	0	0	0	0	0

資料：福祉課

3)成年後見制度利用支援事業利用者数の推移

北中城村の成年後見制度利用支援事業の令和元年度からの4年間の申立助成利用者は7 人、報酬助成利用者は16 人となっています。

成年後見制度利用支援事業利用者数の推移

単位:人

	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年	合計
申立助成	2	1	1	3	7
高齢者	2	1	1	3	7
障がい者	0	0	0	0	0
報酬助成	4	4	5	3	16
高齢者	1	2	4	2	9
障がい者	3	2	1	1	7

資料：福祉課

4)日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助事業)契約者数の推移

日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助事業)契約者数については、令和元年度からの4年間は15 人未満で推移しています。

日常生活自立支援事業及び福祉サービス利用援助事業契約者数の推移

単位:人

	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年	合計
認知症高齢者等	5	3	2	3	13
知的障がい者等	1	3	3	3	10
精神障がい者等	2	3	2	3	10
その他	6	4	4	4	18
合計	14	13	11	13	51

資料：福祉課

2 福祉に関する村民アンケート結果の概要

2-1 アンケート調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、「第5次北中城村地域福祉計画」を策定するため、地域における福祉サービスの利用や地域福祉活動への住民参加などの住民意識を把握し、計画へ反映させることを目的に実施しました。

(2)調査対象者

村内にお住まいの18歳から79歳までの2,340人を住民基本台帳から年齢層に偏りがないように抽出しました。

(3)調査期間

令和4年9月下旬から令和4年10月下旬まで

(4)調査方法

対象者に対し期日を限定し、郵送による配布・回収をしました。
対象者宛に、返信用封筒を同封した調査票を送付し、郵送による配布回収を基本としながら、調査票のURL及びQRコードからWeb回答を選ぶことができる方法で調査を実施しました。

(5)回収状況

配布数	郵送回収	WEB 回収	回収数 総計	回収率
2,340 件	467 件	132 件	599 件	25.6%

2-2 調査結果の概要

(1)属性

年代

- ・年代については、「70歳以上」が25.0%で最も多く、次いで「40歳代」の19.0%、「50歳代」の16.9%、「60歳代」の16.4%、「30歳代」の13.7%等となっている。
- ・ライカム地区をみると、村全体と比較して「40歳代」が18.3ポイント、「50歳代」が5.6ポイント、「30歳代」が3.9ポイント上回っている一方、「70歳以上」が13.2ポイント、「60歳代」が7.6ポイント、「20歳代」が5.0ポイント下回っており、30～40歳代の子育て世代が多く、60歳代以上の高齢者世帯が少ない傾向にある。

世帯構成

- ・世帯構成は、「親と子(2世代世帯)」が 51.4%で最も多く、次いで「夫婦のみ(1世代世帯)」の 24.5%、「単身(一人暮らし)」の 14.0%、「親と子と孫(3世代世帯)」の 7.2%、「その他」の 2.2%となっている。
- ・ライカム地区も同様に「親と子(2世代世帯)」が最も多く 51.0%、村全体と比較すると「単身(一人暮らし)」が 7.6 ポイント上回っている。

居住年数

- ・居住年数は、「30 年以上」が 40.2%で最も多く、次いで「20～29 年」の 14.0%、「10～19 年」の 13.4%、「1～4年」の 13.2%、「5～9年」の 12.5%等となっている。

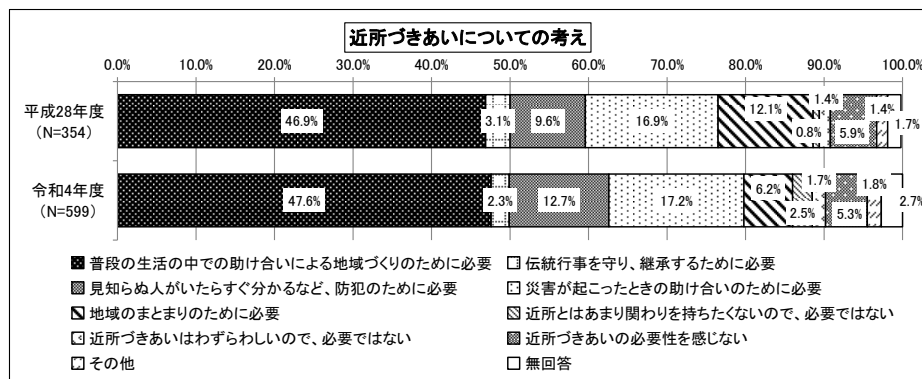
同居家族の要配慮者の状況

- ・同居家族の要配慮者の状況の第 1 位は「いずれもいない」の 45.6%、第 2 位は「65 歳以上の方」の 34.6%、第 3 位は「乳児を除く小学校入学前の幼児」の 11.4%、第 4 位は「介護を必要とする方」の 8.8%、第 5 位は「障がいのある方」の 7.3%等となっている。

(2)住んでいる地域について

近所づきあいについての考え

- ・近所づきあいについての考えは、「普段の生活の中での助け合いによる地域づくりのために必要」が 47.6%で最も多く、次いで「災害が起こったときの助け合いのために必要」の 17.2%、「見知らぬ人がいたらすぐ分かるなど、防犯のために必要」の 12.7%等となっている。



- ・ライカム地区をみると、村全体と比較して「普段の生活の中での助け合いによる地域づくりのために必要」が 12.3 ポイント下回っている。

自治会の加入状況

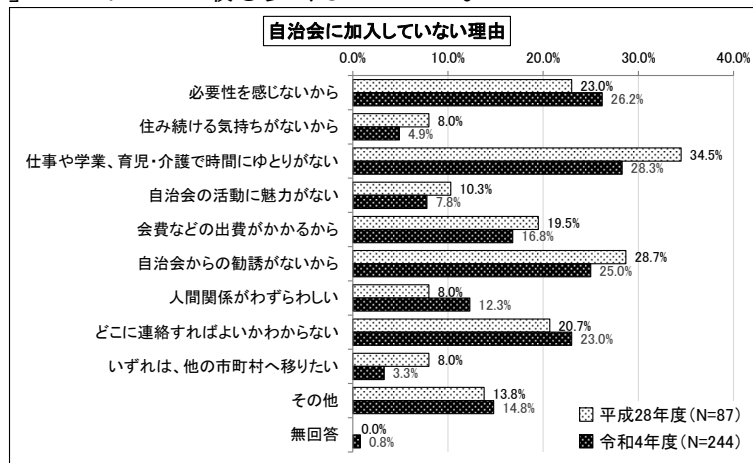
- ・自治会の加入状況は、「加入している」が 57.6%、「加入していない」が 40.7%となっており、前回調査と比較すると、「加入している」が 17.5 ポイント下回っている(自治会のないライカム地区の方の回答もあるため)。

自治会に加入していない理由

- ・自治会に加入していない理由の第 1 位は「仕事や学業、育児・介護で時間にゆとりがない」の 28.3%、第 2 位は「必要性を感じないから」の 26.2%、第 3 位は「自治会から

の勧誘がないから」の 25.0%等となっている。

- ・年代別でみると 10～20 代、30～40 代では「仕事や学業、育児・介護で時間にゆとりがない」がそれぞれ 50.0%、30.0%と最も多いのに対し、70 代以上では「必要性を感じないから」が 30.3%で最も多くなっている。

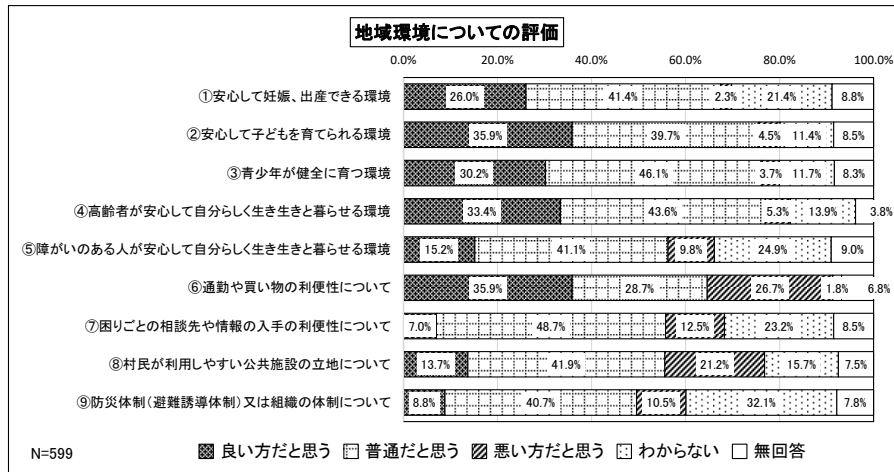


地域活動の参加状況

- ・地域活動への参加状況は「地域活動にはほとんど参加していない」が 64.9%となっており、前回調査と比較すると、「地域活動にはほとんど参加していない」が 10.1 ポイント上回っている。
- ・参加している地域活動は、「自治会・婦人会・子ども会・青年会・老人会などの活動」が 21.4%で最も多く、次いで「文化・スポーツに関する活動」が 5.2%となっており、他の項目については 5%未満となっている。
- ・地域活動に参加していない理由の第 1 位は「仕事が忙しくて時間がないから」の 42.7%、第 2 位は「どんな活動があるのか情報が入ってこないから」の 28.0%、第 3 位は「自治会に加入していないから」の 21.9%等となっている。

地域環境について

- ・全ての項目において「普通だと思う」との回答が最も多くなっている。
- ・「良い方だと思う」との回答では「安心して子どもを育てられる環境」および「通勤や買い物の利便性について」が最も多く、次いで「高齢者が安心して自分らしく生き生きと暮らせる環境」等となっている。
- ・一方、「悪い方だと思う」との回答では「通勤や買い物の利便性について」が最も多く、「村民が利用しやすい公共施設の立地について」、「困りごとの相談先や情報の入手の利便性について」等となっている。



・ライカム地区をみると、村全体と比較して「悪い方だと思う」との回答割合が高い項目は「高齢者が安心して自分らしく生き生きと暮らせる環境」、「防災体制(避難誘導体制)又は組織の体制について」となっている。一方「良い方だと思う」では、「通勤や買い物の利便性」を村全体と比較して33.7ポイント上回っている。

地域の主な課題について

・地域の主な課題の第1位は「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」の57.1%、第2位は「災害時の助け合い」の39.9%、第3位は「子どもの居場所づくり(子どもの貧困対策)」の36.7%等となっている。

地域の組織や団体の役割について期待すること

・地域の組織や団体の役割について期待することの第1位は「災害や緊急事態が起きたときの対応」の64.9%、第2位は「地域で困っている人に対する声かけや支援」の37.9%、第3位は「教育や子育て支援」の37.2%等となっている。

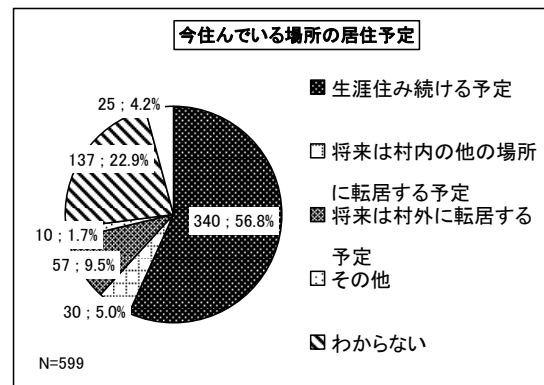
地域への愛着について

・地域への愛着を感じているとの回答割合が(「とても愛着を感じている」+「少し愛着を感じている」)8割を超えている。

・地域に愛着を感じている理由は「住み慣れているから」の67.1%が最も多い一方、地域に愛着を感じていない理由は「生まれ育ったまちではないから」が50.0%で最も多い。

居住予定について

- ・今住んでいる場所の居住予定は、「生涯住み続ける予定」が 56.8%で最も多く、次いで「わからない」の 22.9%、「将来は村外に転居する予定」の 9.5%、「将来は村内の他の場所に転居する予定」の 5.0%等となっている。
- ・ライカム地区をみると、村全体と比較して「わからない」が 8.5 ポイント、「将来は村外に転居する予定」が 6.2 ポイント上回っている一方、「生涯住み続ける予定」が 14.6 ポイント下回っている。



村内の他の場所に転居する予定の方の理由

- ・将来、村内の他の場所に転居する予定の理由の第 1 位は「村内に所有している土地があり、そこに住宅を建てる予定があるから」の 26.7%、第 2 位は「その他（転勤の予定がある、アパートで手狭である等）」の 23.3%、第 3 位は「将来的に、村内の実家で暮らす予定があるから」及び「職場などの通勤の利便性を考慮して転居」、「スーパーやその他施設などの生活利便性が悪いから」が同率の 13.3%等となっている。

村外の他の場所に転居する予定の方の理由

- ・将来、村外に転居する予定の理由の第 1 位は「職場などの通勤の利便性を考慮して転居」の 28.1%、第 2 位は「その他（ライカム周辺の交通渋滞がひどく、通勤に時間がかかる、交通の便が悪く、将来年を取ってから車が持てなくなった時に今の家では不便だから等）」の 24.6%、第 3 位は「将来的に、村外の実家で暮らす予定があるから」の 22.8%等となっている。
- ・将来的に転居する予定と回答した方の転居する予定の時期をみると、「3年以内」が 21.8%で最も多く、次いで「5年以内」及び「10 年以内」が同率の 20.7%等となっている。

困ったときに地域で手伝ってほしいこと

- ・地域で手伝ってほしいことの第 1 位は「特にない」の 37.7%、第 2 位は「緊急時の手助け」の 34.4%、第 3 位は「安否確認などの声かけ」の 21.7%等となっている。

地域での手助けをしてほしいと思う人

- ・手助けをしてほしいと思う人の第 1 位は「地域のボランティア団体など」の 36.1%、第 2 位は「友人・知人」の 32.7%、第 3 位は「となり近所の人」の 30.6%等となっている。
- ・年代別でみると、10～20 代では「自治会などの役員」、30～40 代及び 50～60 代では「地域のボランティア団体など」、70 代以上では「となり近所の人」が最も多くなっている。
- ・居住年数別にみると、1年未満及び1～4年、5～9年、10～19 年では「地域のボランティア団体など」、20～29 年では「友人・知人」、30 年以上では「となり近所の人」が最も多くなっている。

近所で困っている家庭にできると思う手助け

- ・となり近所に、高齢者や障がいのある人の介助・介護、子育てなどで困っている家庭にできると思う手助けの第1位は「安否確認などの声かけ」の61.1%、第2位は「緊急時の手助け」の47.1%、第3位は「相談相手・話し相手」の27.0%等となっている。

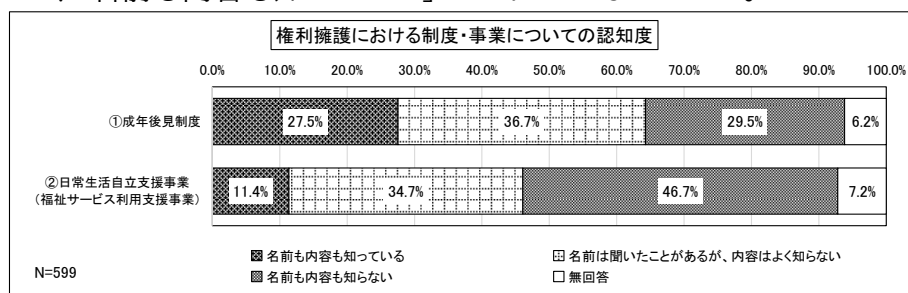
日常生活の中での悩みや不安

- ・日常生活の中での悩みや不安の第1位は「自分の健康に関すること」の37.2%、第2位は「老後の生活や介護に関すること」の36.4%、第3位は「家族の健康に関すること」の31.2%等となっている。

(3)権利擁護について

「権利擁護事業について」

- ・成年後見制度の認知度は、「名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」が36.7%で最も多く、次いで「名前も内容も知らない」の29.5%、「名前も内容も知っている」の27.5%となっている。
- ・日常生活自立支援事業(福祉サービス利用支援事業)をみると、「名前も内容も知らない」が46.7%で最も多く、次いで「名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」の34.7%、「名前も内容も知っている」の11.4%となっている。



「権利擁護相談窓口の認知度」

- ・村に権利擁護相談窓口があるか知っているかは、「知らない」が80.5%、「知っている」が16.2%となっている。

(4)災害時における助け合いについて

災害時要援護者への登録について

- ・災害時要援護者への登録希望は、「将来、自力で避難できなくなったら、登録したい」が61.1%で最も多く、次いで「よくわからない」の27.5%、「自力で避難できるので(将来、自力で避難できなくなっても)、登録する必要はない」の5.3%等となっており、「すでに登録している」との回答割合は1割にも達していない。

(5)福祉に関する意識、地域福祉に関わる団体等の周知について

地域の問題に対して、地域住民の支え合いは必要かについて

- ・地域の問題に対して、地域住民の支え合い助け合う関係が必要だと思うかについては、「必要だと思う」が84.5%で最も多く、次いで「わからない」の11.5%、「必要だと思わない」の2.7%となっている。

地域住民が支え合う関係が必要ないと思う理由

- ・地域住民が支え合う関係が必要ないと思う理由は、「住民相互の協力関係による活動に期待していないから」が31.3%で最も多く、次いで「地域社会の問題は、村などが全面的に対応すべきであるから」の25.0%、「個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」及び「その他」が同率の12.5%等となっている。

地域の支え合いによる支援活動について

- ・地域の支え合いによる支援活動への参加有無については、いずれの事業においても「聞いたことがない」との回答割合が最も多く5割～6割となっており、認知度がやや低い現状がうかがえる。また、「サービスを利用したことがある」では、いずれについても1割を切っており、利用割合については低い傾向にある。
- ・地域での支え合い活動への不参加の理由の第1位は「活動があることを知らなかったから」の36.2%、第2位は「仕事が忙しくて時間がないから」の33.8%、第3位は「参加の仕方がわからないから」の16.6%等となっている。
- ・地域の支え合い活動への今後の参加意向は「参加したいとは思わない」が43.1%で突出している。

(6)再犯防止の取り組みについて

再犯防止の取組について

- ・再犯防止の取り組みの認知度は、「知らなかった」が67.1%で最も多く、次いで「聞いたことはある」の19.4%、「知っているが、特に協力はしていない」の8.0%、「再犯防止の取り組みを知っており、協力している」の1.8%となっている。
- ・再犯防止での立ち直りに協力したいと思うかでは、「わからない」が28.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば思う」の27.0%、「どちらかといえば思わない」の16.9%、「思う」の12.4%、「思わない」の11.2%となっている。

(7)福祉サービスについて

村の福祉や保健に関する情報の入手方法

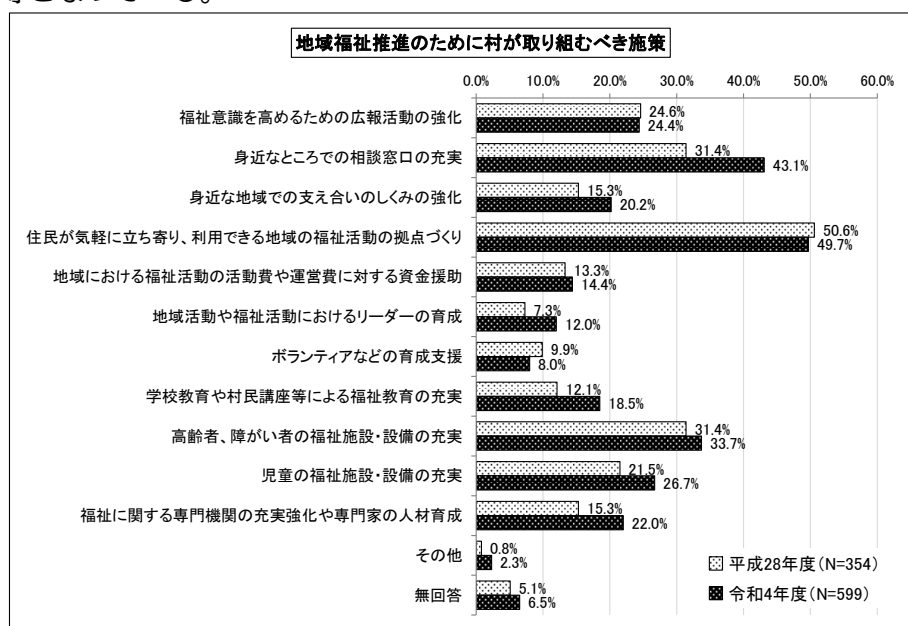
- ・村の福祉や保健に関する情報の入手方法の第1位は「村の広報誌」の73.5%、第2位は「村のホームページ」の37.9%、第3位は「社協の広報誌」の17.7%等となっている。前回調査と比較すると、「村のホームページ」が16.4ポイント上回っている一方、「社協の広報誌」は4.6ポイント下回っている。
- ・年代別でみると、70代以上では第1位の「村の広報誌」に次いで、第2位は「社協の広報誌」となっている。

地域福祉の充実のために望ましいと思う行政と地域住民の関係

- ・地域福祉の充実のために望ましいと思う行政と地域住民の関係については、「地域の課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が50.4%で最も多く、次いで「わからない」の13.5%、「家族や地域で助け合い、解決できない地域の課題についてのみ行政が援助すべきである」の12.9%等となっている。

地域福祉推進のために村が取り組むべき施策

- ・地域福祉推進のために村が取り組むべき施策の第1位は「住民が気軽に立ち寄り、利用できる地域の福祉活動の拠点づくり」の49.7%、第2位は「身近なところでの相談窓口の充実」の43.1%、第3位は「高齢者、障がい者の福祉施設・設備の充実」の33.7%等となっている。



【まとめ】

今回のアンケート調査結果において、「自治会加入状況」は減少傾向にあり、「地域活動への参加状況」についても前回アンケート調査と比較しても減少している状況となっています。加えて「自治会に加入していない理由」についても、「必要性を感じないから」との回答が3割もあるなど、地域における連帯感が弱くなってきていると考えられます。

一方、「近所づきあいの考え」や「困った時の手助け」「地域福祉の充実のために望ましいと思う行政と地域住民との関係」などについては、普段の生活の中をはじめ、緊急時における手助けをするために互いに協力して支えていくことが必要であると認識していることから、村民が様々なテーマで地域に関わりをもてる仕組みづくりを行うことが重要になると考えます。

3 自治会及び事業所からの意見聴取の概要

自治会、事業所へ活動状況や課題などについて、意見（簡易アンケート）を伺いました。各団体からの意見概要は以下のとおりです。

(1)自治会(8自治会から回答)

【活動状況及び課題】

- ・自治会加入状況にこの数年大きな変化は見られないところが多いものの、新規加入者の状況も多くない。
- ・会員の高齢化に伴う地域活動への参加者の固定化・減少によって、今後の地域活動に不安を感じている。
- ・自治会役員の後継者問題、若い世代の担い手不足
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、みんなが集まって行う活動や行事が開催延期となっており、活動が停滞。

【地域の方から相談を受ける内容】

- ・独居高齢者の別の地域に住んでいる家族からの生活支援に関すること
- ・障がいのある男性の職場から、体調が悪化しているため、このまま同じ仕事を続けるのは厳しい状況であることへの相談
- ・高齢者へのスマホにくる迷惑メールへの対応
- ・コミュニティバスについて（買物、通院などに利用しづらい）
- ・生活のちょっとした困り事（草刈り、高いところの作業、買い物）
- ・地域にあるごみ屋敷のようになっていることへの対応

【地域での見守り・支え合いの体制づくりに必要なこと】

- ・行政や社会福祉協議会、民生委員・児童委員や自主防災会など各団体との地域課題の情報共有・連携強化
- ・行政や社会福祉協議会、民生委員・児童委員と協力して、独居高齢者や高齢者世帯の見守りと行政の支援へのつなぎ
- ・一部自治会においては、体制づくりが進められており、アンケート調査で困り事の把握などの活動も展開

(2)事業所(沖縄中央療護園、ソルファコミュニティ)

【地域の障がい者やその家族が地域での生活維持・継続していく上での課題】

- ・レスパイトケア(家族負担軽減)
- ・行政への書類の提出(直近ではマイナンバー等)施設での集団申請が出来れば本人、家族、施設の負担軽減になる。
- ・住宅周辺的环境(バリアフリー等)
- ・北中城村内には、福祉サービスが多くなく、近隣市町村の事業所に通っている方も多いと聞く。
- ・村内の公共交通の便が悪く、西側(宜野湾側)から東側(渡口・和仁屋・熱田)へバス移動が行いづらい。

【地域での支え合いの現状と課題】

- ・現在は特に新型コロナウイルスの影響にて地域との関わりが少なくなっているのが現状。
- ・北中城村は地域でのつながりが他市町村に比べて密接であるように感じている。

【災害時に支援が必要な障がい者等の避難支援が行われるために必要な取り組み】

- ・地域全体の災害訓練の実施
- ・避難場所が周知できる体制づくり
- ・定期的な広報誌等での情報提供
- ・村高台側は土砂崩れ、村海側は津波等の災害が予測され、特に海側地域は住宅と畑がメインの地域となっており大きな会社が少なく、平日などの災害発生時に救助者となれる人員が不足

【地域福祉推進計画に期待すること、提案したいこと】

- ・地域住民と交流できるイベントや情報交換できる場所が多く存在すると、地域で困っていることや、声なき声の発見ができ、新たな地域貢献が見つかるかもしれない。
- ・福祉事業所もいくつかあるが、そのほとんどと顔つなぎができていないのが現状で、障がい分野に限らず、福祉全体として顔がつながった動きができるとより良い村福祉ができるのではないかな。

4 住民ワークショップの意見概要

<村民ワークショップの概要>

地域づくりに興味がある方や、地域の福祉に携わっている方を対象に、ワークショップを開催しました。

北中城小学校区と島袋小学校区の2地区を対象に、2回にわたって開催し、地域の将来に向け必要な取り組みを考え、課題の解決などについて意見をうかがいました。

■第1回テーマ:「5年後、10年後の地域はどのようになっているか」

北中城小学校区	開催日時:令和5年1月26日(木)	18:30~20:30
島袋小学校区	開催日時:令和5年2月1日(水)	18:30~20:30

■第2回テーマ:「前回、想像した5年後、10年後の地域の状況を踏まえ、必要な取り組みを考えよう! (課題の解決策など)」

北中城小学校区	開催日時:令和5年2月2日(木)	18:30~20:30
島袋小学校区	開催日時:令和5年2月8日(水)	18:30~20:30



■【第1回 北中城小学校区】

地域の主な課題 (地域が衰退している・将来不安なこと)
【自治会・地域活動・地域とのかかわり】 ・自治会同士の交流がない、自治会へのデメリットしかない、自治会の活動は高齢者のみになっている、自治会長の担い手不足 ・自治会の加入率の低さがそのままなら、魅力を感じない ・流入者による近所づきあいの減少 ・アパート、集合住宅に住んでいる人の状況が分からない ・婦人会活動がなくなっている 地域の方たちとのコミュニケーションも薄くなり、触れ合うことがなくなっている ・地域清掃活動参加者の低下 ・コロナ禍で子ども会の活動も停滞している 【支援が必要な人の増加】 ・引きこもりの人がいる ・ひとり親世帯の増加 ・地域の老老介護、独居老人の増加、高齢世帯の増加 ・消防、自治会等がどれだけ高齢者世帯を把握しているか分からない ・コミュニティ不足で孤立する人や認知症が多くなるのでは 【人材・担い手不足】 ・農業従事者がいなくなる 地元の野菜が食べられなくなる ・後を継ぐ子がいなく空き家やトートローマーが放置されるのでは ・子どもたちが少なくなり村に活気がなくなるのでは ・「大城花咲爺会」は担い手となる若い人がいない(大城地区) 【移動支援】 ・村内巡回バス。観光用ではなく公民館から役場へ 主要スーパーへ ・各公民館から役場等へのバスがあればよい ・コミュニティバスはあるが、高齢者はバス停まで行くことができない ・乗り合いタクシー皆で声をかけ、買い物に行ければいいな 【情報発信】 ・高齢者は今の情報ツール(広報誌)だと見にくいのではないか ・防災無線、家庭用スピーカーのレンタル ・家庭に1台、村広報用タブレット ・情報発信が物足りない(住民に届いていない) 【施設】 ・公園遊具がない ・子ども達の遊ぶ場所は現状と変わらず無いと思う ・スポーツできる環境が足りない ・施設(運動場)はあるけど、でこぼこしたりしてやりにくい→結果、村外で活動

■【第2回 北中城小学校区】

課題の解決方策 (解決策・誰がやるのか)
OCSW(コミュニティーソーシャルワーカー)を配置する ○地域づくりを強化する(各字へ) 職員の配置(各字へ) 【地域をつなぎ、元気にする公民館】 ⇒ 地域のつながりが増える 自治会加入者も増える ・常に開いている、気軽に立ち寄れる、公式LINEを作る、公民館・集会場の平日オープン、鍵の開閉を交替でできる仕組みづくり、キーボックスで鍵の管理 ・行政や社協が現場(公民館)に出向いて、相談や困りごとを指導する ・日替わり訪問、共同売店、字食堂を開催する ・公民館でデイサービスを受けられるようにする ・公民館に来たら食事もあり野菜を無料で持ち帰れる(困っている人) ・教育となり組で子どもの見守り(老人と子どもの集い) 【地域活動から交流へつなげる】 ・子どもの力の活用⇒子ども会、青年会、壮年会つながり、子ども会字を越えた活動の参加、地域防災へ中学生を巻き込む ・おさがり会からの交流 ・音楽部や吹奏楽、ダンス、POP、シンガーがお互いの意見を出してイベントをする ・子どもたちが子ども会や自治会を活用して、お年寄りと会話する ・子どもの犯罪防止のために近隣住民とつながりを持つイベントを企画する ・親同士、友達の子と顔見知りになることで犯罪防止になる ・地域の掃除の後、子ども達のミニ運動会を開く(公民館) 自治会 ・子どもたちの長期休みなどに、元気な高齢者との交流でひきこもりの解消 【高齢者が住み良い村にするために】 ・配食サービス(今は非課税世帯のみ)⇒高齢者など枠を広げる⇒民生委員さんが状況把握 ・社協、行政が高齢者に役割を与える 有料ボランティア(低料金) ・常に声かけができる環境(認知症防止) 自治会 民生委員 社協 ・琉舞や芝居を月に1回見ってもらう 行政(計画実行する) ・村主催で高齢者が出たくなるような催しを月に1回開催する エイサーとか出張カフェなど ・福祉課、社協、学校で認知症の方への対応の仕方を教える(オレンジの輪) 認知症サポーター養成講座 【子育て環境を良くするために】 ・ひとり親やヤングケアラーの早期発見、対応応援、情報の共有化 社協 民生委員 福祉課 ・子ども会の活性化 育成者との意見交換、共通理解 生涯学習課 自治会 ・保育園のみならず地域の公民館でも気軽に育児ができるように 老人会 自治会 ・児童館(高齢者が放課後に子どもたちの宿題をみる) 【地域を支える人材・担い手の確保】 ・地域おこし協力隊を活用する ・人材不足の対応としてボランティアのバイト(ボラバイト) 村民 ・地域ごとに必要な人材を求めた時のために、村は技能別人材を集め確保し、要望に応じて人材を出す ・空いている土地で小中学生の農業体験⇒興味を持ち、将来農業を目指す子も出てくる JA農協 行政

【移動支援の充実】

- ・コミュニティバスを2コースから4コースにする
- ・サロンまで行くバスを巡回させる⇒送迎サービス 孤立防止
- ・タクシーチケットを高齢者や障がいのある方に配布してタクシーを使いやすくする
- ・行政と連携して、地元のタクシー会社を有効活用する
- ・デマンド、乗合タクシーがあれば良い

【移動販売からの交流の場】

- ・移動販売をする場所の確保⇒みんなが集まってくる⇒コミュニケーションがとれる⇒安否確認がとれる
- ・生協を利用する(共同購入が便利)⇒コミュニケーションもとれる

【情報発信の工夫】

- ・テレビの「dボタン」から北中城村の情報がとれる(各字、村のこと)
- ・「まちやぐわー」をつくる⇒情報がもらえる
- ・各週や毎日、活動場所の紹介(ネットワークの活用)

【既存の施設を活用する】

- ・今ある公民館や地域にあるお店を活用し、夏休みなどに子ども通貨を利用して村内の食堂を利用できるようにする⇒公民館や地域にあるお店を活用する⇒行政のちょっと補助が必要
- ・空き家を活かして各字にみんなが集まる売店
- ・空き家を活かしてコミュニティカフェ10時茶、3時茶を開催する

■【第1回 島袋小学校区】

地域の主な課題 (地域が衰退している・将来不安なこと)
【地域のつながり】 ・地域のつながりが薄くなっているかも… 自治会への加入が減っているかも… ・自治会←(加入率 必要を感じない) ・地域活動の参加者が限られている ・同じ地域で暮らす人の顔も名前も知らない ・若者たちの住む場所がなく、他地域へ流動しているのでは？ ・高齢者の孤立 【子育て環境】 ・子どもの貧困が見えてこない ・遊び場が少なくなっている ・現在は子どもたちがどこにいるのかも分からない 【移動手段】 ・移動手段が限られている ・バスが少ない(公共) 【人材・担い手】 ・地域活動を支えるリーダーが減る、担い手不足 ・上の世代の意見が強く、若い世代は言いたいことが言いにくい！

■【第2回 島袋小学校区】

課題の解決方策 (解決策・誰がやるのか)
【地域を自治会単位で盛り上げるために！ 公民館のさらなる活性化！拠点に！】 ・定期的にゆんたく、お茶飲み会 ・公民館講座＋飲み会 ・公民館を利用して老人会と子ども会の昔のおもちゃ作り体験の場・耕作していない畑を貸してもらい子ども会や老人会で野菜づくり ・公民館が軸！みんなが集まれる場所に！ ・いつでも誰でも必ず入れる、安心できる公民館 ・公民館なら家から歩いて行ける(移送支援がなくても大丈夫) ・売店の機能も公民館でできないか 【地域とつながるための仕組み・しかけ】 ・営農体験 ・農業版みらいチケット ・ピザ釜 ・ガイドまち歩き歴史・地域(高校生でも)養成講座の自治会(地域)での事業化 ・商工会、地域の事業者さんとのつながりを持ち、自治会活動(エイサーなど)を盛り上げる ・ICTの活用 ポイント制での自治会得点 清掃 草刈り ・空き地、放棄地の営農講座 → 専業化 ・カフェバス(外に出る元気がない方を少しでも外へ。村内スピーカーをつけながら回る) 行政 社協 ・ジム、カフェ、サウナを居場所にできればよい ・異なる地区でも各字どうしてイベントを共催する 一緒に取り組む ・村内や字内でお金が回る仕組みづくり⇒村内で動いてくれる人を募集する⇒その人の収入源になる ・移動のとうふ屋に人が集まり、結果⇒安否確認をしている(現在、渡口地区)
【子育て環境を良くするために・貧困問題の解消のために】 ・子ども育成会に保護者以外でも入れる ・子ども会の活動に親も多く参加できるイベントを ・貧困問題について、イオンライカムでのイベント 青年会への意識づけ ・子ども食堂のようなもの 飲食店などをお願いをして料理などを作ってもら 公民館で! ・こども会議を開催する！(こどもたちは大人に意見を言う場が欲しい)
【移動手段を良くするために】 ・公民館にもバスが止まるように、コミュニティバスのルートの検討

■【第1回 ライカム地区】

5年後、10年後ではなく、今困っています!!

- 村に住んで不満が多い
- 北中城村に住んで良かったことがない

【自治会をつくるには？】

- ・自治会が設立されても加入するかは、気持ちは半々
- ・行政が自治会に求めることが不明
- ・どうやって自治会をつくるのかも分からない
- ・役場に自治会をつくる部署が今はない

【行政の施策対応が弱い・遅い】

- ・各課の連動
- ・行政からの手続き、広報不足
- ・村からの情報が少ない
- ・高齢者福祉が弱い
- ・コミュニティーバスが分かりづらい「ぐすくめぐりん」の利用率が低い
- ・バス停の位置が悪い
- ・新しい制度ができる・できない・決まっていないことが多い
- ・教育分野の支援の充実 村立・県立の壁 教育支援

【住んでいる環境の改善】

- ・ライカムの駐車場の雑草
- ・公園ができていない
- ・街灯がない、外路灯も無くカーブミラーも無い、自治会がないとできない？

■【第2回 ライカム地区】

課題の解決策
(解決策・誰がやるのか)

○地域のライカムファンを増やす!!

【地域環境を良くするには!! 自治会をつくるには!!】

- ・まず地域を知ることが重要
- ・地域に興味をもってもらう仕掛けが必要 → 地区をめぐるイベントをやる
- ・自治会づくりのイベント フリーマーケット イオンモールとイベントをタイアップ
- ・自治会の設立に向けた条件整理が必要
- ・行政と協力した自治会 設立に向けた取り組みの推進
- ・自治会は無いかど要望が実現できるようなルールづくり(ハードルを下げる)→ライカム地区の地図を作成(公園など)→イオンと協力した仕掛け
- ・自治会づくりのために実現できる 何人かの世帯、住人でチームで要望を
- ・ライカムに自治会を・・・自治会づくりだと人は来ない → エイサー伝統を！ 公園！

【安全対策(交通・防犯)】

- ・カーブミラーを設置して欲しい(ファミリーマートの裏、スピード 車) 行政
- ・防犯灯を(安全面を考えて)(自治会) 行政
- ・PTAの要望 スクールゾーン 委員会などの活用

【植栽の維持・管理(商業施設)その他も】

- ・どこに言えばいいのか？ → 個人→施設、 → 個人→行政→施設
- ・消防上からのアプローチ(草刈り)
- ・(イオンモール)草刈りをしてほしい(住宅街とイオン駐車場)